

t e n g e s a n s a n

白蝶花



豊中市仏教会七十周年記念

天花燦々

(てんげさんさん・明るく輝く様子)

聖徳太子は、真如の理に冥する「至聖」を掲げられ、万法を照らし、大非息むことなき救済をその働きとして述べられました。伝教太師この教を受けて本覚思想を完成されました。それは「山川草木 悉皆成仏」の思想であり、有機物のみならず無機物もまた、佛の生命を享受して輝いていると考えます。

天地のもののすべてが仏（法性）の顕れであると認識して、互いにその生命を尊び合い、共生の大地を歩むべきであるという考えであります。

表紙図柄は西福寺蔵「仙人掌群鶏図」若冲筆（重文）

この考えを簡潔に表現したものが太子憲法第一条“和”であります。

この“和”の芸術的、感性的表現が天花燦々という言葉に帰一すると考えられ二十一世紀の人類の理念とし、掲げたいと思います。

和宗総本山 四天王寺第百五世管長 瀧藤尊教著
「慈恩の生涯」二百五頁より

(尚、題字は同貌下による真蹟である)

目次

ご挨拶	2
お祝いのメッセージ	5
豊中市仏教会歴代役員・現役員・70周年実行委員会	11
市民のつどい式次第	12
記念講演「お釈迦さまからのメッセージ」ひろ さちや氏	14
豊中市仏教会の歴史	16
豊中市仏教会会員名簿	28
寺院紹介	29
豊中市仏教会賛助会員名簿	85
賛助会員紹介	86
協賛広告	98
編集後記	134
豊中市仏教会会員所在地	



天花燦々— 今こそ人間関係の再構築を

豊中市仏教会会長
大阪府仏教会副会長
東光院住職

村 山 廣 甫

克明文教の風土に育まれ、已むに已まれぬ豊中市への郷土愛より発足した我が豊中市仏教会は、地域社会への宗教的情操の涵養と公共の福祉に奉仕すべく、創立以来70年その時々時代の要請にこたえつつ文字通り「継続は力なり」を実践し続けて今日に到りました。

江戸時代我が国の国教として、寺檀関係に安住し繁栄を謳歌していた我ら伝統仏教は、明治維新後の神仏分離・廃仏毀釈・社寺領土地処分・国有境内地の返還問題等の激動の中を果敢に乗り切り、またさらに追い打ちをかけた敗戦後の政教分離と宗教法人法の制定・公的教育の場における宗教教育の禁止等の諸問題にも、仏教の知恵を駆使して着実にその法灯を守り続けてきた今日までの歩み—それはそれなりに積極的に評価されて然るべきでしょう。

しかるに昨今我らを取り巻く諸情勢は、唯物的拝金主義の「もので栄えて心で滅びる」危機的様相を呈しています。愛情も幸福も地位も権力も全て金で買えるとうそぶき、商品を置かないインターネット一本での利ザヤ稼ぎ、インサイダー取引や見せ金による詐欺まがいの商法、さらには食料品の偽装や消費期限の不当表示など、汗して働く本来の労働とはおよそかけ離れた品位なき虚業の洪水です。また「消費者は王様だ」との思い上がりから資源の大量消費は限度を知らず、それにより発生する炭酸ガスCO₂は地球温暖化を急激に昂進して種の絶滅が進行中、無限にあると信じられてきた地球の資源もその枯渇が危惧されるに至っています。このようなサイコロの空、砂地獄化していく大地に生きるわれわれに、これらの環境は実に大きな精神的な影響を及ぼしているのです。このところを現代の仏教者はしっかり認識しておくことが肝要でしょう。仏教が「少欲・知足」を八大人覺の一として説いていることを再確認すべきです。

およそ仏教は「大無量寿経」において、われわれが「本源的に孤独である」ことを教えています。言い換えれば豊かに「孤独を生きて行く」ための幸福学こそが仏教の真髄なのです。そこには「エコノミックアニマル」と蔑まれ、朝起きてから寝るまでお金や物のことばかり考えている「一億総生産」の孤独に生きる生活の日送りではなく、世間全体が「一億総幸福」となる孤独を生きる豊かな知恵の宝庫が示されてい



(昭和62年4月26日正午 東大寺「千僧法要」にて) 全日仏青による東大寺大仏殿前での千僧法要に当時の豊中市仏副会長 豊島今雄師、現顧問の田原翠成師、それに会員の伊申善道師が参加された。感激の至り、天花燦々。

ます。しかるに人は常に孤独を癒してくれる何かを求め続けています。その癒しが「家族」の中にあることを、祖先は仏教的な知恵でもって教えてくれていました。それを何を血迷ったのか戦後のわが国は、その家族制度を封建的だと思い込み、徹底的に破壊し尽して「核家族」にしてしまったのです。それでも終身雇用を約束した会社があったときは、不十分ではあったけれど其処が家族に代る癒しの場にもなりました。でもその会社がリストラを始めて、社内の人間がライバル関係に立たされるに至った時、既に家族を失ってしまった現代社会の人々は、癒すことのできない寂寥感に襲われて、何時も安心して居れない不安定なストレス状態に追い込まれてしまったのです。この本源的な孤独を解決してくれるもの、それは「癒し」の中にはなくて「平安・禪定」の中にこそあると説いているのが仏教です。

「ヤマアラシのジレンマ」の譬えがあります。寒さに震え上がった2匹のヤマアラシが、お互い身を寄せ合って温め合おうとしますが、お互いの剛毛が針のように痛くて抱き合うことが出来ません。それでも離ればなれになるのは寂しいのでお互いが傍でオロオロ徘徊しているというお話です。ここでいうヤマアラシの針のトゲこそ私たち人間が振りかざす「自我」、義務を果たさない自己の「権利」主張の象徴です。仏の知恵は、その時その針のトゲを立てないで、寝かせ引っ込めて身を寄せ合う知恵を提供します。聖徳太子はその17条憲法の第1条で「和を以て貴しと為す」と、「和」こそ人間関係の大本の精神であり天地の理法であるとお示しになりました。人は派閥を作り、エゴに流されて君臨しようとして、そのためあろうことか宗教者間あるいは宗派間ですら、禍や争いを惹き起し、み仏の教えである敬愛・慈悲・共生に反する生き方をしています。お互いに和やかな心で睦み合い、真理に基づいた立場で話し合えば、どんな問題でも解決し、成功するものです。豊中市仏教会は、この70周年を期に「和」をその根本精神として、できるだけ宗旨宗派の垣根を低くして、孤独にしか生きられない現代社会のジレンマに、一隅を照らす浄行を「不断の連続」に提供していく処存です。およそ「和」の精神が発露する時、天地のもの皆がそれぞれの生命に輝き、自然の広大な営みと、その永遠の生命に対する畏敬の念が自ら湧出する日々になるでしょう。「天花燦々（てんげさんさん）」は、新たな人間関係構築の結晶であり、この「和」の芸術的感性的な表現です。小生の若かりし頃、東大寺で初めての「千僧法要」がありました。また大阪で15年ぶりの「WFBY（世界仏教青年連盟）」の世界大会もありました。いずれも小生の深く関与した行事です。最後にそのとき小生が実感した天花燦々を、古ぼけた2枚の写真で紹介して、今日まで導き協力して下さった同志各位に深甚なる感謝の意を表したく存じます。ありがとうございました。

仏・法・僧の三宝の祝福が各位の上にあらんことを。

合掌

LET'S SPEAK HIGHLY OF BUDDHISM.

YOURS IN THE DHARMA. MAY THE NOBLE TRIPLE GEM BE YOU AND YOURS.



(昭和62年11月15日、新大阪駅頭にて来日したWEBYのスタッフと共に)
東京大会を終えて不安にかられて帰阪した小生にとって、豊中市民橋本治彦氏、他のボランティアによって作られたこの横断幕の出迎えは涙が出るほど嬉しかった。天花燦々。



70年を省みて

豊中市仏教会前会長
信行寺前住職

岩 田 隆 一

昭和12年（1937）日中戦争勃発とともに挙国一致、大政翼賛運動と思想統制のなかで、隣組、警防団、国防婦人会等が結成され国内の緊張が高まってきたなか、国家神道の抑圧は各寺院も結束の必要に迫られたため豊中仏教団を結成したのである。その後太平洋戦争へと進展していくが、仏教団としては、托鉢による献金や大政翼賛運動の啓蒙、資源不足の為の仏具、梵鐘の献納に協力したが、ほどなく敗戦となった。

爆撃にあって荒廃した檀信徒各寺院は復興に励んだが、食糧難の生活が続いた。昭和25年（1950）豊能税務署より団長宛（興法寺住職 源道康師）に各寺院の所得収入の報告が求められ、実直な団長は困惑のすえ、当時税務の仕事に係わっていた私に依頼され、税務署に赴き事情を説明、仏教団を源泉徴収義務者として給与報告することで決着し団長も一安心されたことであった。

仏教団の行事としては毎月親睦、情報交換を兼ねた頼母子講や、各寺持ち回りの花まつりなどがあり、昭和45年（1970）梅林寺住職 木下霊牛師が団長るとき、アソカ、こうずしま、ことぶき、寿光、城山、千種、超光寺、仏光、豊南、穂積、明福幼稚園の各園長のご協力により、市民会館大ホールにて園児による花まつりが行われた。先生方のコーラスなどで父母の参加もあり盛大であった。昭和59年（1984）如来寺住職 平興誓師の団長就任と共に大阪府仏教会に加盟することになり、名称も『豊中市仏教会』と改められた。

平会長が大阪府仏教会副会長就任まもなく、府仏教会50周年記念近畿大会の実行委員長となり、その手腕と成果を期待されることとなった。各寺院住職また青年部の協力による動員、会場整理の手配などで会場のフェスティバルホールは満席となり、盛況のなか終わることが出来た。この成果により豊中市仏教会としては安堵と面目を立てることが出来たのである。

平成7年（1995）1月17日におこった阪神淡路大震災による各寺院、檀信徒の被害は多々あり復興のため仏教会の活動も休止したが、平成10年（1998）復活の機運高まるも、平会長はこれを機に勇退、不肖ながら私が会長に選任され会務をすることになった。主たる行事であった花まつりは幼稚園の事情により開催は不可能となり、替わるものとして2月に涅槃会を行うことになった。運営には実行委員会を設けて実施内容を検討し毎年200～300名の一般参加者があり好評を得て現在に至っている。それもひとえに各寺院のご協力が大きな支えとなっていることに感謝を申し上げることである。

省みて創立当時の先師は和合を旨とする仏教徒が、国家の方針とはいえ戦争に賛同する言動を採らざるをえなかった苦衷を察するに、62年間戦争のなかったことを大切に、平和を強く願う仏教会・仏教徒でありたいものである。



祝 辞

豊中市長

浅利 敬一郎

豊中市仏教会がめでたく70周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

昭和12年6月に宗旨宗派の垣根を越えて発足され、以来70年の長きにわたり、宗教活動を通して、本市における福祉の向上はもとより、社会教育の充実などに格別のご尽力をいただいております。

歴代の会長さんをはじめ、各ご寺院のご尽力に心から感謝と敬意を表します。

仏教会の発足された前年の昭和11年10月に、豊中町と麻田村、桜井谷村、そして熊野田村の一町三村が合併し、人口37,733人の豊中市が誕生しました。大阪府内で4番目、北摂では他町村に先駆けての市制施行でした。町村時代以来の「煙なき緑のインテリア住宅都市」の来住歓迎PRにより、人口は急激に増加しました。

そして、戦中・戦後の荒廃と混迷の時期をはじめ、復興期、高度成長期、オイルショック後の財政危機など、幾多の困難と試練を経験致しました。

また、阪神・淡路大震災により、府内で最大の被害を被りましたが、これら多くの困難を乗り越え、今日、人口39万人を擁する教育・文化都市として発展を続け、全国的にも高い評価を受けています。

こうした変遷の中、仏教会の皆様には、常に発足時の崇高な精神のもと、その時々の上社会的な要請に応じていただきながら、慈悲の心や他人を敬う心を説かれるとともに、多くの人々を励まし、市民の心の支え、心の拠り所となってお活躍いただいております。誠に有難く存じます。

昨今、わが国の社会状況は、大変むずかしい状況にあります。出生率の低下、核家族化の進行、生活様式の多様化が進むとともに、犯罪は凶悪化・卑劣化・巧妙化・低年齢化しています。特に子どもの非行やいじめなどが跡を絶たず、弱者や高齢者などをねらった犯罪も増加しています。また、環境問題も深刻で、地球的な規模で温暖化や環境破壊が進行しています。これら嘆かわしい状況は、豊中市も例外ではありません。

かつて日本は、世界一安全な国といわれました。そして、日本固有の文化や習慣、互助・共助の精神、家族の支え合いなどは、多くの外国の人たちからも賞賛され、注目されてきました。

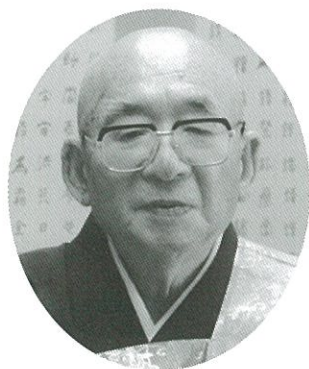
現代社会を憂う声をよく耳にします。私も同感であります。

ひずみやゆがみを抱えた現代社会、困難な時代にはありますが、仏教会の皆様方には、地域文化の振興をはじめ、心豊かな地域づくり、文化財の保存、緑豊かなまちづくりなどに引き続きお力添えをいただきますようお願いを申し上げます。

豊中市は昨年、市制施行70周年を迎えることができました。この節目を迎えられましたのも、市民の皆様や先達の方々のお陰であり、本市が築きあげてきた伝統や文化を更に発展させるため、全力を傾注してまいります。

とりわけ良好な住宅都市・教育文化都市としてのブランドを維持しつつ、安全で安心して暮せる、そして「子どもたちの未来が輝くまちづくり」をめざしてまいります。

最後に、豊中市仏教会がこの70周年という記念すべき節目を契機に今後益々発展されますよう、併せて、各寺院のご隆盛を心から祈念申し上げます。



お祝いのことば

全日本仏教会会長
曹洞宗管長
大本山總持寺貫首

大 道 晃 仙

このたび豊中市仏教会が創立七十周年をお迎えになり、同市内において記念式典が盛大に開催される由、謹んでお祝い申し上げます。

承るところによれば、当仏教会は、同市における宗教的情操の涵養と公共の福祉に奉仕するために、市内在籍の伝統仏教の宗派が垣根を越えて協力活動してゆくことを昭和十二年に宣言したところから始まりました。爾来、市内歴代の仏教者の方がたが、その創立の精神を受け継ぎ、さらにその時々の社会的要請を十分に把握して種々創意工夫を加えた取り組みを展開されて来ました。

今般七十周年記念式典が大勢の方がたのご尽力により営修され、歴代諸先達の業績の顕彰や七十年の重みの慶讃、さらには未来への展望の探求も真摯に成されますこと、誠に意義深いことであるとしみじみ受け止めております。

各処にて申し述べていることですが、老衲の一生涯の願いは、あらゆる人と人とが仲良く共に助け合い、支え合うような和合の社会を築いてゆきたいとの一願に尽きます。

しかし現実とは全く反対の様相を呈しています。世界は利害をめぐる駆け引きの中で悲惨な戦闘に明け暮れ、災禍に巻き込まれて犠牲になる人が絶えません。わが国においても信じられないような凶悪な事件、乳幼児への虐待、学校でのいじめ等、社会の行方へ不安は一段とつのっています。

時代がこのような殺伐とした方向に向かってゆく最も大きな原因は、「自分さえよければそれでよいのだ」という利己的な考えがより色濃く世の中に広まっているからであると想います。

われわれ人間を含むこの世のありとあらゆるものの中で独力で自存しているものは何一つありません。すべてのものが、他の無数の支えや助けがあってはじめて成り立ちます。すべては、切り得ぬ関わり合いの中で生かされている存在です。これこそ釈尊が覚られた「縁起」という真理です。

ゆえにわれわれは、利己的な「我見・我執」を乗り越え、他の存在を生かし支えてゆく生き方を求めてゆかなければなりません。あらゆる関わり合いの中で生かされている自らを振り返り、他を認め尊重してゆく立場です。釈尊が自ら歩まれ、そしてお示しになった道であり、われわれ仏教徒が生涯をかけて共に歩み、世の中に広めていく大切な道です。噛みしめたいものです。

伝統仏教の各宗派がそれぞれ独自の展開で布教活動に鋭意努力することはもちろん大切なことでありますが、宗旨宗派を超えて互いに交流し、共に一丸となって仏教のすばらしさを世の中に宣揚することも仏法興隆にとって非常に大きな意味を持ちます。世の中を少しでも明るい方向に向かわしめるには、各地において今後ますますこうした活動の発展と充実が望まれます。

その意味においても、歴史と実績のある豊中市仏教会の今後のさらなるご隆昌を心より祈念申し上げる次第であります。

創立七十周年誠におめでとうございます。重ねて甚深なる祝意を表します。

- ・ 大正6年12月18日生
- ・ 昭和31年3月 釧路定光寺住職
- ・ 昭和39年10月 定光寺専門僧堂堂長
- ・ 昭和45年11月 曹洞宗宗議会議員
- ・ 昭和55年11月 大本山總持寺監院
- ・ 平成7年12月 大本山總持寺西堂
- ・ 平成10年3月 大本山總持寺副貫首
- ・ 平成14年10月 大本山總持寺貫首



七十年を讃える

大阪府仏教会 会長 増 田 貞 圓
真宗大谷派圓勝寺住職

継続はパワーなり、と云うが、七十年の歳月は重い。

戦後六十年余を至遇するが、思えば戦前に結成され、戦争という異常な時代を生き抜き、戦後の混乱を乗り越えて、今日まで七十年の歴史を刻んでこられた、豊中市仏教会の活力、協和力に頭が下がる。

伝統仏教教団の歴史は古い。明治以降に成立した教団を仮に新宗教と呼ぶならば、それ以前に成立した、所謂 伝統教団の歴史はゆうに千年を超えるが、それらは一定の教義、一定の開祖宗祖をいただき、それぞれ独自の教団を形成している。

しかし、地域仏教会は、一定の地域を中心として、宗派を超えた寺院及び僧侶の集りである。

それ故に、組織の運営面において、多々難しい点があると思われる。

その地域独特の風習もあるだろうし、近くに位置しているために、寺と寺とがライバル関係にあったりすることもあるであろうと推察されることもある。

最も大きな差異は、宗派が違うということであろうが、それぞれの立場の違いを超えて、和合僧の精神で、花まつりや成道会等の諸行事を推進し、時には地域の合同慰霊祭や、平和の集い等が開催されるのも、地域仏教会の存在意義ではあるまいか。

また、混迷を極める現代においては、仏教行事を推進するのみならず、政治、社会、教育等の分野においても、地域仏教会から積極的に発信していくが、望ましいのではないかと思う。

今日においても、地域における寺院の存在は、決して小さなものではないと思われる。

所有する建造物はさりながら、肝要なことは、そこに存在する住職及び寺族の在り方である。

地域の人々からは、我々は総合的な人間力が、いかほどのものがと常に試されていると思わねばならないし、同時に期待されていると思う。

いろんな意味での社会貢献をすべき立場を自覚し、日々自己研鑽に励まなければならないと思う。

行動する良質な知識人の集まりこそ、仏教会でありたい と思う。

豊中市仏教会が七十年の歴史を刻み、様々な困難を乗り越えて、共に相和し、研鑽し、活動を続けて来られた、先師及び同師に心から敬意を払うと共に、今後の益々のご発展を祈念し、お祝いのことばといたします。



豊中市仏教会 創立70周年に寄せて

大阪府仏教青年会 会長
高野山真言宗富光寺副住職

松 家 宣 崇

このたびは豊中市仏教会様が70周年を迎えられ、盛大に記念講演会祝賀会を開催されますこと、誠に目出度く、心よりお慶び申し上げます。

一口に70周年と申しましても創立より戦中戦後の大変な時代を先人の努力で仏教興隆、社会教化に、大きな足跡を残してこられたことに深く敬意を表します。

さて私共、大阪府仏教青年会は、豊中市仏教青年会に加盟して戴いている関係で、現在副理事長と理事とに出向していただき、また当会役員として会計も務めていただいている事で、豊中市仏教会様とも、懇意にさせて戴き、いつも感謝致しております。

数年前、当会の前々会長の頃、豊中市駅前での托鉢募金活動を計画した際、法雲寺様に於かれましては、快く会所をお貸しいただき、村山会長様には、御多忙にも拘りませず、お出迎え戴き、お蔭様で一致団結した托鉢を行えたことを感謝しております。

これからも、当会と豊中市仏教会様青年会様と連携協力し、互いに社会教化活動していけることを希望致します。

また、豊中市仏教会様が、80周年に向かって益々発展されていきますことを心よりお祈り申し上げます。

合掌

長年の 苦行の後に
我独り 悟りひらくと
菩提樹の 蔭に坐りて
動かざる、大地のごとし

魔物らの いざなひをしも
退けて つひにうち克ち
あかつきの 星出づる時
目覚めたる 者とはなりぬ



降魔成道の釈迦如来

悪魔の誘惑や脅迫と戦い悟りを開か
れるシツダルタ王子



豊中市仏教会創立七十周年を お祝いして

大阪市淀川区 黄檗宗自敬寺住職
特定非営利活動法人 アーユス仏教国際協力ネットワーク理事
特定非営利活動法人 関西NGO協議会監事

服 部 隆 志

この度は豊中市仏教会創立七十周年おめでとうございます。

私は高校時代、豊中市を縦断して通学していました。駅ごとに違う車窓の景色は今も覚えています。三五年前のことです。近所の六十歳代後半の方からは戦時中、豊中のお寺に疎開していたと聞いています。その当時すでに豊中市には仏教会があったのです。戦後設立された仏教会は多いと思いますが、戦前から仏教会を組織され、現在は社会活動にも積極的に取り組まれていることに敬意を表する次第です。私は一昨年貴会から講演の依頼を受けました。演題は災害時の寺院の役割についてでした。荷が重すぎましたが、アーユスの活動を紹介するチャンスだと思いお伺いいたしました。アーユスはサンスクリット語でいのちの意味です。仏教超宗派の僧侶が中心となって、世界のさまざまな問題に縁起の考えの下に活動している会です。

当日会場に入ってまず驚いたのは、豊中市の防災課の担当の方が数名来られていたことです。実際に災害が起こった時、寺院に何が出来るかを探る研修会であったのです。又、行政が寺院等の宗教法人に対して何を要請して来るかを聞く場でもありました。この企画をされた村山会長をはじめ、役員の方々の時代を読んだ姿勢に感銘しました。

実際、担当者の方からは豊中市内には活断層が三本走っている事、大災害時には服部緑地は自衛隊の救援基地になる等、行政の対策を聞きました。

阪神淡路大震災の時の事例も紹介し、被災寺院でありながら出来る寺院活動について考えました。東海豪雨では西枇杷町の寺院も被災者です。そこでの活動の一つに、門前と水とトイレの提供がありました。門前が救援活動の拠点になり、ボランティアはそこで炊き出し等の活動をするのです。

緊急を要する活動、短期に必要なこと、そして長期に渡っての心のケア、私たちにはさまざまな使命があるのだと教えられました。

豊中市仏教会のますますのご発展を祈念してお祝いの言葉といたします。

合掌



豊中市仏教会 創立70周年に寄せて

株式会社ミキハウス

坂 本 達

ホームページ <http://www.mikihouse.co.jp/tatsu>

豊中市仏教会創立70周年、誠におめでとうございます。「涅槃会の集い」で2度お目にかかりました、自転車世界一周の坂本でございます。

4年以上の単独自転車世界一周と、後の西アフリカ・ギニア共和国での井戸掘りプロジェクトは自省と再生の日々であり、大きな無力感と小さな希望の連続でした。目の前の現実をどうとらえ、どう関わるかで周りの状況が大きく変わりました。笑顔で接すれば笑顔が返ってきて、自分の小さな気持ちや行動ひとつが結果を大きく変えていきました。そしてどんな環境にあっても人生を肯定し、当たり前のように感じている日々の生活、家族、友人、同僚、命、水、今という瞬間などを大切にすることを学びました。

一連の活動や拙著『やった。』『ほった。』を通じて、人は生かされているということ、幸せの基準はひとつではないこと、夢や目標を持つことの大切さなどをお伝えできたら、そしてすべての人がより豊かで平和に生きられる時代になったらと願って活動を続けています。皆様とご縁に心から感謝し、今後も皆様と共に大きなゆめを持って活動を続けます。ありがとうございます。

2007年7月18日



〈ミキハウス刊〉



豊中市仏教会 創立70周年に寄せて

エッセイスト

高田都耶子

豊中市仏教会が、七十周年を迎えられるとのこと、誠におめでとうございます。

数年前に豊中市仏教会に講師として、お招きいただきましたことが、ご縁の馴れ初めです。豊中市仏教会のお集まりは、宗派を超えて和気藹藹とした会でありまして、思い出深く残っております。

私の父は、奈良薬師寺の管主でありました。学問で成立した南都の寺院は、組織作りをしない、それゆえにお檀家がない、つまりはお葬式をしないという慣習を貫きとおして今日まで来ました。

ですが父は、値打ちがあるのは町のお寺さんやと、いつも申しておりました。あの方たちの日々のご努力があってこそだと言っておりました。私の生まれた寺は葬儀をしない寺ですから、高田家としての月参りには融通念仏宗の旦那寺に来ていただいております。酷暑の中、雪が舞い散る凍てつく中も、月参りを頂くときに父の言葉が思い出されてなりません。

生前父は時折、戒名を頼まれることがありました。お断りしても、どうしてもとおっしゃる人には、「僕が付けさせてもらおうと高いよ」と言うのです。「結構でございます」と言われ、「ふうん、どれくらいくれはるの。ほお、そうか、そんなにくれはるか。ホンマやな」と父はにこにこ話して、そして最後に「そしたらな、僕が戒名付けさせてもらうよってな、今言った金額な、あなたの旦那寺さんに納めてな。これが僕の条件や」それが父のいつもでありました。旦那寺の応援団でありました。

日本人は無宗教であるかのように言われますが、私はそうは思いません。ゆったりとした大らかな宗教観の中にあるのです。遠い先祖を神様、近い先祖を仏様として、神様仏様先祖様と、日本人はそういう民族です。

心の基軸がぶれている現代、仏心を広めてゆくことは、大きな大きな意義のあることと存じます。豊中市仏教会のご活躍とご発展を願って止みません。



慈 響 ～慈しみのこころ・世界に響け～

(有)ニッカアカデミー二胡音楽院院長
広島大学医学部客員研究員

ジャン
姜

ショウ イェン
曉 艶

ホームページ <http://www.h4.dion.ne.jp/~jiang/>

この度、豊中市仏教会が70周年をお迎えになられましたこと、心からお慶び申し上げます。

私たちが日頃親しんでいる仏教は、古くから数え切れない人々のご苦勞をいただき、インド、中国、日本と環境の厳しいシルクロードを経て、今を生きる私たちの元にまで届きました。

私たちのいのちは、私個人のものでなく、生まれ変わり死に変わりして、量り知れない時間を超え、この私にまで受け継がれてきました。

その尊いいのちをいただいている私たちは、何のために生き、そしてどこに向かって生きているのでしょうか？

世の中に目を向けますと、人の心は荒れ果て、人間としての痛みを感じることもないストレス社会の中で、やり場のない不安と空しさを身を持って感じておられる方は少なくないと思います。

そうした中で、目先のことばかりに振り回され、一喜一憂する日常に明け暮れているのであれば、あまりにも悲しく勿体ないことです。

私たちは皆、み仏さまに照らされたキラキラと輝くいのちを生きています。

私は、かけがえのない“いのちの尊さ”と“真なる平和”を願い、胡弓の音色が心癒される調べとして、これからもまた人々の胸に語りかけてゆきたいと思っています。



歴代役員名簿（4代までは豊中佛教団）

	寺 号	氏 名		寺 号	氏 名
初代団長	看景寺	豊島 了寛	副団長	瑞輪寺	阪田 金龍
	(南部 興法寺	源 道康)			
2代団長	瑞輪寺	阪田 金龍	副団長	興法寺	源 道康
3代団長	興法寺	源 道康	副団長	法華寺	大岩 泰直
4代団長	梅林寺	木下 霊牛	副団長	光源寺	陰山 恵昌
5代会長	如来寺	平 興誓	副会長	看景寺	豊島 今雄
6代会長	信行寺	岩田 隆一	副会長	光源寺	陰山 昌雄
			副会長	東光院	村山 廣甫
7代会長	東光院	村山 廣甫	副会長	光源寺	陰山 昌雄
			副会長	瑞輪寺	阪田 浩章
			副会長	西福寺	榎原 清了

現 役 員 名 簿

会 長	村山 廣甫	東光院	曹洞宗
副 会 長	阪田 浩章	瑞輪寺	黄檗宗
	榎原 清了	西福寺	浄土真宗本願寺派
会 計	服部 玄朗	根本寺	日蓮宗
	森 祐昭	浄久寺	浄土真宗本願寺派
書 記	本莊 廣司	南昌寺	曹洞宗
	秦 博文	安楽寺	浄土宗
会 計 監 査	陰山 正信	永照寺	浄土真宗本願寺派
	畠山 信龍	正安寺	浄土真宗本願寺派
広 報	豊島 了雄	看景寺	真宗大谷派
事 務 局 長	岩田 仁	信行寺	浄土真宗本願寺派
事務局次長	渡邊 智行	誓願寺	真宗大谷派

豊中市仏教会創立70周年実行委員会

大 会 長	村山 廣甫（東光院）		
事 務 局	豊島 了雄（看景寺）	本莊 廣司（南昌寺）	
式典委員会	阪田 浩章（瑞輪寺）	秦 博文（安楽寺）	陰山 正信（永照寺）
	源 淳道（興法寺）	田中 裕心（不動院）	
財 務 委 員 会	服部 玄朗（根本寺）	渡邊 智行（誓願寺）	岩田 仁（信行寺）
	佐々木隆昌（徳林院）	辻本 純昭（法雲寺）	嶋本 珠行（正泉寺）
	岩瀬 友泰（念仏寺）		
記念誌委員会	榎原 清了（西福寺）	森 祐昭（浄久寺）	畠山 信龍（正安寺）
	中井 賢隆（最勝寺）	木下 大朗（梅林寺）	星野 親行（西法寺）

豊中市仏教会創立70周年記念 市民のつどい

平成19年12月2日(日) 於 ホテルアイボリー

午後2時30分 第一部 記念法要・式典

開会の言葉

司会 武^{たけ}周^{ちかお}雄氏(朝日放送アナウンサー)

導師・法要式衆 入場

仏讃歌 「いまささぐ」

三帰依

啓 白

開経偈

舍利礼文

回 向

聖号七声

導師 法要式衆 退場

仏讃歌 「四弘誓願」

会長挨拶 豊中市仏教会会長 東光院 村山廣甫

祝辞 豊中市長 浅利 敬一郎 氏

大阪府仏教会会長 増田 貞圓 師

来賓紹介

感謝状授与

・法要は、豊中市内の伝統仏教各宗派の代表によってつとめられます。

・コーラスは、「ピース・ダーナ」の皆さんです。

午後3時30分 第二部 記念講演

ひろ さちや氏 「お釈迦さまからのメッセージ」

午後4時30分 閉会の言葉 豊中市仏教会 副会長瑞輪寺 阪田浩章

啓 白 文

謹み敬って大恩教主釈迦牟尼仏、三世諸仏の御宝前、遷化せる今は亡き豊中市仏教会会員各位の真前に申して白さく。

本会は、昭和十二年六月六日克明第三小学校、現大池小学校にて、豊中市仏教団として産声を挙げ、爾来、市内における宗教的情操の涵養と地域社会の公共の福祉に尽くさんと不断の活動続けたり。

数えて、本年にて七十年の節目の年を迎えたり。その間、戦災を乗り越え、阪神大震災を克服し、今日に至るまでの歴代会長、役員、会員の精進に心からの敬意を表し、また今日まで支え下されし市民に感謝の念を捧ぐ。これまでに、仏恩に報ずるの行い、衆生教化の正業なり。

釈尊成道の臘八を迎える今日、多数の来賓、仏縁につながる有縁の各位の参集を仰ぎ、その七十年慶讃の記念法要式典を勤修せんとすること、無上の喜びなり。ここに改めて草創の意義に鑑み、その意志を更なる未来に向けて引き継ぎ、心新たに精進することを誓わんとす。

冀わくは、み仏の光、いよいよ輝きを増し、釈尊成道の境地に導き、法輪常転して、僧俗共に、自利利他の共願を成就せしめ給わんことを。

専ら祈る、先亡せる者は苦海を出離し、十方三世一切の諸仏天神地祇等ここに來たりて照鑑し給わんことを。更に祈る、豊中市仏教会の益々興隆せんことを。乃至法界平等利益

維時 平成十九年十二月二日

伝法沙門比丘 廣甫 謹んで白す

法 要 次 第

仏讃歌 「いまささぐ」 (コーラス)

今ささぐ このみ^{あかし}灯 まことの道を 明^あかしたま^あ給え この光 永久に絶えず つたなき歩み 照らし給え
 今ささぐ 清きこの^か香 まことの^{かお}香り ^{うつ}移し給え この香り 永久に絶えず 我が行く先に 香り給え
 今ささぐ この花束 まことの心 咲かし給え この花ぞ 永久に絶えず われに^{ほほえ}微笑^{にお}み^に匂い給え

三^{さん}帰^き依^え (Ti-sarana) (導師・コーラス)

(意味)

ブ ッ ダ ン サ ラ ナ ン ガ ッ チ ャ ー ミ ー
 Buddham saranam gaccha—mi
 ダ ン マ ン サ ラ ナ ン ガ ッ チ ャ ー ミ ー
 Dhammam saranam gaccha—mi
 サ ン ガ ン サ ラ ナ ン ガ ッ チ ャ ー ミ ー
 Samgham saranam gaccha—mi

仏(ブッダ)に帰依します。

法(ダルマ、仏の教え)に帰依します。

僧(サンガ、仏道実践の人たち)に帰依します。

啓 白 (導師)

開経偈 (導師・一同)

(導師独誦) 無^む上^{じょう}甚^{じん}深^{じん}微^み妙^{みょう}の法^{ほう}は 百^{ひゃく}千^{せん}万^{まん}劫^{ごう}にも 遭^あい^あ遇^おう^{かた}こと難^し(一 同) われいま見^{けん}聞^{もん}し 受^{じゅ}持^じすることを^じ得^えたり 願^{ねが}わ^はくは 如^に来^げの真^{しん}実^{じつ}義^ぎを解^げしたてまつらん

舎利礼文 (経題維那発声・一同)

(一 同) いっしんちょうらい まんどくえんまん しやかにょらい しんじんしやり ほんぢほっしん ほうかいどうば がどうらいきょう
 一心頂礼 万徳円満 釈迦如来 真身舍利 本地法身 法界塔婆 我等礼敬
 いがげんしん にゅうががにゅう ぶつ か じ こ がしょうぼだい いぶつじんりき りやくしゅうじょう ぼつぽだいしん
 為我現身 入我我入 仏加持故 我証菩提 以仏神力 利益衆生 発菩提心
 しゅうぼさつぎょう どうにゅうえんじやく びやうどうだいらい こんじょうちやうらい
 修菩薩行 同入円寂 平等大智 今将頂礼

(意味) あらゆる徳を円満にそなえたまえるみ仏のみ足いただきひれ伏して、一心不乱に礼拝す。

永久不滅の御舍利は、まことのみ法(のり)そのままに、宇宙を照らす塔婆なり。われら敬い礼(らい)すれば、われらのためにみ仏は、
 尊きすがたあらわして、あらゆるものを救うなり。仏とわれとけあいて、われは仏に抱かれつつ、ひとつになるぞうれしけれ。仏のめ
 ぐみあるゆえに、われらも悟りの道を知り、仏の力いただきて、一切衆生を救わんと、大きな誓いをうちたてよ。菩薩の道を修めつつ、
 みなもろともにこの身こそ、そのまま尊きみ仏の大きな生命(いのち)たまわりて、生かされ生くるありがたさ。
 すべてをめぐむ大慈悲と、光りかがやく大智慧とわれらひとしくいただけるそのめぐみこそ拝むべし。

回 向 (導師・一同)

(導師独誦)

(一同)

願わくは この功德をもって あまねく一切に及ぼし

われらと衆生と みなともに 仏道を成ぜんことを

聖号七声 (導師・一同)

(導師独誦)

(一同)

南無釈迦牟尼仏 南無釈迦牟尼仏 南無釈迦牟尼仏・・・(六回唱和)

仏讃歌 「四弘誓願」 (コーラス)

しゅじょうむへんせいがんだん
衆生無辺誓願度ぼんのうむしゅうせいがんだん
煩惱無数誓願断ほうもんむじんせいがんがく
法門無尽誓願学ぶつどうむじょうせいがんじょう
仏道無上誓願成



講題

「お釈迦さまからのメッセージ」

講師 ひろ さちや 氏

【プロフィール】

本 名：増原 良彦

1936年 大阪に生まれる。

1960年 東京大学文学部印度哲学科を卒業。

1965年 同大学院博士課程を修了。気象大学講師となり、のち助教授、教授として20年間教壇に立つ。

仏教を中心に宗教を分かりやすく説き、多くの人々の支援を得る。

大正大学客員教授。

【主な著書】

『デタラメ、あきらめ、いい加減』

(ソニー・マガジン社)

『仏教、はじめの一步』 (春秋社)

『人生の価値、それとも無価値』 (講談社)

『すらすら読める「歎異抄」』 (講談社)

『ひろさちやの般若心経88講』 (新潮社)

『「狂い」のすすめ』 (集英社)

お釈迦さまがいまの日本に出現されたら、きっと大きな溜息をつかれるに違いありません。日本は仏教国でありながら、少しもお釈迦さまの教えを学んでいないからです。いや逆に、お釈迦さまの教えに反することばかりやっています。

お釈迦さまの教えがすなわち仏教なんです。が、仏教の教えはつまるところ、

—少欲知足—

です。あなたがたの欲望を少なくしなさい。そして、足るを知る心、もうこれで充分です、ありがとうございますといった感謝の心を持ちなさい。そうすると幸せになれるよ。お釈迦さまはわたしたちにそう教えられたのです。その意味では、仏教は「幸福学」です。どうすればわれわれが幸福になれるか、それを教えたのが仏教です。

欲望を充たすことによって、わたしたちは幸福になれないのです。

欲望を充足させることは、なかなか困難です。なまなかな努力では、それは不可能です。しかし、それよりも、かりに欲望が充足されたとしても、それで幸福にはなりません。なぜなら、欲望が充足されたとき、欲望そのものが肥大化するからです。

たとえば、年収が一千万円欲しいとします。そして、その人の年収が5百万円であれば二分の一の幸福、八百万円になれば八割の幸福、一千万円になると100パーセントの幸福になるはずなんですが、そうではありません。年収一千万円欲しいと思っていた人が一千万円得られるようになると、こんどは年収三千万円欲しいといったふうに欲望が膨れ上がります。その結果、欲望が充足されることによって、かえって不幸になるのです。

お釈迦さまは、だから「少欲知足」の教えを説かれたのです。欲望を充足させるのではなしに、むしろ欲望を少なくしなさい。そうすることによってあなたたちは幸福になれるのだよ。そう教えてくださった。

なのに現代日本人は、あくなき欲望を追求し、欲望の充足ばかりを考えています。景気が悪くなると、すぐさま景気回復を口に叫び、経済的利益ばかりを追っています。日本人はエコノミック・アニマルと呼ばれています。アニマルというのは畜生です。日本人は人間ですらなくなったのです。お釈迦さまはきっとそのような日本人を叱られるに違いありません。わたしはそう思います。

*

*

では、どのようにすれば、お釈迦さまが教えてくださった「少欲知足」になれるのでしょうか？

まずわたしたちは、自分を好きになりましょう。

ともすればわたしたちは、自分が自分であってはいけないと思ってしまいます。現在の収入では少ない。もっと稼ぎたい。そう思うことは、現在の自分を否定しているのです。

自分を否定して、自分は他人のようでなければならないと考えているのです。それじゃあ、幸福にはなれませんよね。

考えてみれば、わたしたちは「ご縁の世界」に生きているのです。ご縁の世界においては、誰も彼もが競争の勝者になることはできません。勝者があれば必ず敗者があります。誰かが敗者の役割を引き受けねばならないのです。

そして、勝者になるか、敗者になるかは、本質的には偶然に決まるのです。たとえば、いくら実力のあつる受験生でも、試験の当日に乗ったタクシーが事故を起こせば、受験場に行けず不合格になります。もちろん、全部が全部、偶然ではありませんが、偶然の要素が非常に大きいことはまちがいありません。

その意味ではわれわれは、現在の自分のあり方はほとけさまが決めてくださったと思うべきです。かりにあなたが病気になれば、ほとけさまがあなたに病人になってほしいと頼まれたのだと受け取りましょう。だってご縁の世界においては、病人がいないと医師や薬剤師が生活に困ります。誰かが病人の役割を引き受けないと、このご縁の世界はうまくいかないのです。

もちろん、反対に誰かが勝者の役割をしないといけません。貧乏人ばかりの世界ではありません。金持も必要です。そして、もしもあなたが金持の役割を与えられたら、立派な金持になってください。立派な金持というのは、布施の心を持った人です。布施の心とは何でしょうか？それは、いつもいつも得をすることばかり考えずに、損をする勇気を持つことです。貧乏な人が損をするとダメージは大きい。その点、金持は少々の損をしても平気でいられます。その損をする勇気こそが、ほとけさまが勝者に望んでおられることです。

ともかくわたしたちは、あるがままの自分を好きになりましょう。そのあるがままの自分こそ、ほとけさまが与えてくださった自分なのですから。

＊

＊

そして、わたしたちは、身の周りにいる人々の「あるがまま」を好きになりましょう。

身の周りの人々というのは、まず第一にわが子です。

そしてわが子は、ほとけさまからのかりものです。所有権といったものは親にあるわけではない。所有権はほとけさまにあり、親はほとけさまに頼まれてその子を預っているだけです。

ほとけさまはすべての子を、「そのまんま」で幸せにしてやってくれと頼まれているのです。ハンディキャップのある子は、そのハンディキャップのあるまま幸福にしてあげることが、ほとけさまの願いに応えたことになるのです。

だとすれば、勉強の嫌いな子はそのまんまで、怠け者は怠け者のままでいいのです。勉強の嫌いな子を勉強好きにさせることが、親の仕事ではありません。現代日本のような競争社会においては、勉強が好きなのは案外に競争心の強い子であつて—それはそれでいいのですが—必ずしも人間的にすぐれた子どもではないのです。それは、一流大学を卒業したエリート官僚が汚職をしたりするのを見てもわかります。勉強の嫌いな子に、人間的にすぐれた子が多いかもしれません。

すべての子がほとけさまからお預りしている子どもですから、そのまんまを認めてあげましょう。わが子に向かって親が、

「あなたがあなたであつていいのだよ。いま、あなたがあるそのまんまがお母さん（お父さん）は好きなんだからね」

と言ってあげたとき、子どもはどれだけ幸せになれるでしょうか。わたしはそのような言葉こそが、慈悲の言葉だと思うのです。

ともあれ、現代の日本は狂っています。親がわが子に対して、「あなたはあなたであつてはいけない」（怠け者であつてはいけない、のろまでであつてはいけない）と、否定ばかりしています。また、自分に対しても、自分のいまある状態はよくないと考えています。なぜ、自分が自分であつてはいけないのですか？！ そんな馬鹿げた考えはやめにしましょう。

いまこそ、仏教の教えに耳を傾けるべきときです。わたしはそうに考えています。

豊中市仏教会の歴史



1. 仏教団発足と時代背景（戦前）

豊中市の市制の歴史をひもとくと、明治2（1870）年廃藩置県の後、大阪府豊島郡の41ヶ村であったが、明治10年の町村制施行により、明治22（1889）年には新免、南轟木、山之上、桜塚、岡町の5ヶ村が合併して豊中村となり、新田村、桜井谷村、熊野田村、麻田村、南豊島村、中豊島村、小曾根村、庄内村とあわせて9つの村になった。昭和2（1927）年4月1日、町制が施行され豊中村のみが町となり、さらに昭和11（1936）年10月15日には、豊中町と麻田村、桜井谷村、熊野田村の3ヶ村が合併して豊中市が、大阪府下4番目の市として誕生した。この年の2月には陸軍将校らが高橋是清蔵相を暗殺した二・二六事件が起こっている。

市制が施行されて約8ヶ月後の昭和12（1937）年6月6日、前年の4月1日に開校して間もない克明第3尋常小学校（現大池小学校）において、豊中仏教団は豊島了寛師を団長に産声を挙げた。南部の中豊島、南豊島、小曾根、庄内の各村は、豊中市に入らず、源道康師のもと独自の仏教団を組織していた。一ヶ月後の7月7日には盧溝橋事件が起こり日中戦争へと日本が突き進んでいく時代であった。そんな戦時体制に向かおうとしている時代に、豊中市の市制拡大の動きと相まって、豊中の寺院は市内（北部）と南部に別れてはいたが、仏教団を組織して活動を始めたのであった。

当時、供出・配給制度が敷かれており、寺院にローソクの配給、年末には餅米の配給等があった。昭和16（1941）年、金属回収令が出され、昭和18、9年頃には日用品にまで適用され、各寺の五具足等の仏具や梵鐘が強制的に供出され、代わりに黒色の陶器製の五具足が配給された。昭和19、20年頃になると、戦死者が多数出たことにより各市町村の学校の講堂において葬儀が執行された。仏教界として奉仕せよとの命令で、北部・南部2ヶ所の小学校に分かれて執行された（南部では中豊島小学校にて）。南部では、西法寺の星野修観師が導師を勤め、藤井寺、止々院（現在の純正寺）、西琳寺の各住職が出仕して修業された。

一方、疎開児童を受け入れていた寺院もあり、仏教界も戦時体制の中に組み込まれていた時代であった。

2. 戦後の仏教団（昭和20～30年頃）

太平洋戦争が終結し、我が国は戦争の焼け跡から再出発をすることになるが、豊中市も昭和22（1947）年、南部の中豊島、南豊島、小曾根の3ヶ村が合併して市域が広がった。それに合わせて仏教団も合併して阪田金龍師を団長に豊中仏教団として再出発した。事務所は瑞輪寺内の桜華幼稚園に置かれた。

毎月末日に会合が開かれ、和親講という頼母子講も持たれ、大変盛会であった。

その後、釈尊降誕会（花まつり）をしようという気運が高まり、実行委員会をつくり、

一、岡町商店街の役員に協力を求める。

一、各寺、特に豊中、岡町地区の寺の檀信徒の家へ托鉢にまわる。

一、各寺が協力金を出し合う。

以上のようなことを取り決めて、昭和27（1952）年に第1回花まつりを催した。瑞輪寺を出発し、僧侶、30名位の稚児、桜井谷や野畑の在家の同行会の方々による楽人等で行列を組み、白象を引き、商店街を練り歩き、大門公園で灌仏会を催した。昭和30年まで開催されたが、資金難の為に中止になり、以後は各寺の持ち回りで花まつりを行うことになった。

昭和31年頃から瑞輪寺で2回、他に報恩寺、藤井寺、西福寺、純正寺等で持ち回った。途中、中断もあったが、あまり人が集まらず、ほとんどが当番の寺の檀信徒だけで、団員も20名位であった。

また、大池小学校で開催された市主催の戦没者追悼法要においては、仏教団が協力して、法要を勤め、約7、8年続いた。

3. 市民会館の花まつり（昭和40～60年頃）

昭和43（1968）年に豊中市民会館ができて、若手の会員からの発案で幼稚園児を招待して市民会館を借り、盛大に執り行うことを決議、仏教会会員の賛同を得た。

- 一、幼稚園経営の各寺から園児を父母ともども招待する。
- 一、幼稚園の教諭に仏教讃歌コーラスをしてもらう。
- 一、子供向けの劇をしてもらう。
- 一、式典は白象を中心に仏教会会長を導師に各寺院出席、灌仏会を行う。
- 一、一ヶ寺1万円、特別拠出する。

等の取り決めをして市民会館にて花まつりを10数年続けた。

市民会館での花まつりに加え、仏教会主催で「講演会」が開かれ、笑福亭仁鶴氏を講師として迎えた。

その他、葬祭組合の奉仕により毎年、残骨供養が豊中斎場にて執り行われ、仏教会も出仕協力していたが、その後中止になった。

4. 涅槃会を始めて（平成～）

平成に入り、花まつりが諸事情によりできなくなり、仏教会の活動も、一時中断した。平成7年阪神淡路大震災が起こり、市内寺院もそれぞれに被害を受けた。その中でも、檀信徒、地域の人たちにボランティアで炊き出し等をして、社会貢献をした寺院もあった。以後、各寺は自坊の復興に追われる。

平成10年4月、仏教会の再生を願って、看景寺を事務所として岩田隆一会長以下新役員を選出して会合を持ち、花まつりに代わるものとして、涅槃会の開催を企画した。ホテルアイボリー3階のオーキッドホールにて毎年2月中旬に開催される「涅槃会のつどい」も第9回を数えるに至っている。

豐中 佛教團 豐島 了寬

シャークヤ、譯して能られたる印度ネパール
仁と云ふ佛の慈悲廣大
なるを示した種族の名
であり、牟尼は寂黙と
譯し佛の智慧深甚なる
を示したる美稱である
時、その圓柱には當
時の書體と言語で「釋

其隨一で、佛、如來
 といふ等しく成道者
 の名である、此等を總
 括し略して釋尊は或る
 哲學者間に傳へられた
 るが如き太陽神話の假
 作的人物では決してな
 いのである

× ×

釋尊降誕地として傳へ

迦族の聖者、佛陀に
 降誕せらるゝと彫つ
 てある、そのみなら
 ずその附近から灌木に
 全然おははれてゐたの
 で今まで知られなかつ
 た一見天然の丘のやう
 つ傳造の記念碑がまた
 一基發見されたのであ


 豊中降誕会法要実行委員会
 昭和三十三年三月五日豊中佛教団主催
 第一部 会場 光源寺(本町三丁目)

第一部 会場 大池小学校講堂
 一 混合合唱 コール・ホル・フェル
 二 佛教聖歌 指揮 荻輪英隆
 三 献花 各幼稚園の代表
 四 灌佛文
 五 読経

第二部 会場 大池小学校講堂
 一 混合合唱 コール・ホル・フェル
 二 佛教聖歌 指揮 荻輪英隆
 三 献花 各幼稚園の代表
 四 灌佛文
 五 読経

三 腹話術 井上文夫
 四 奇話人形劇 小谷蓮永
 五 舞踊 花柳一平 中

八 三保松 前田彰子
 七 新後子 熊谷やよい
 六 玉屋 依藤豊子
 五 満山 井上みどり
 四 大橋 柳繁子
 三 手習子 下林隆子
 二 未衣子 宮本伊子
 一 菊子 藤沢美子

以上

誕 降 尊 釈
 花 ま つ り

と き 4月8日 午後1時
 と ころ 螢池小学校講堂
 もよおしもの
 童話、人形劇、腹話術、曲芸
 バレー、日本舞踊
 主 催 豊中佛教団
 おかえりにおみやげをさし上げます。

時 四月八日 午後一時
 必 豊中市屋善徳寺
 御釈迦様の誕生
 花まつり
 記念講演
 左藤義詮 師
 深浦正文 師
 龍谷大学教授
 文学博士
 児童の花行列をいたします
 主 催 豊中佛教団

誕 降 尊 釈
 花 ま つ り

と き 四月八日 午後一時
 と ころ 桜井谷 野畑報恩寺
 (阪急バス宮山下車)
 第一部 花まつり灌佛会法要
 第二部 講演会
 印度の佛蹟を巡拝して
 龍谷大学教授 佐藤哲英 師
 東南アジアと日本
 産経新聞社 論説委員 岸田健三 氏
 主 催 豊中佛教団



昭和45年



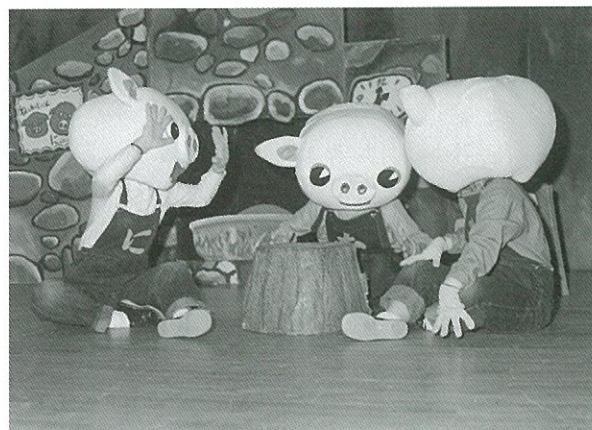
昭和45年



昭和46年



昭和46年



昭和47年



昭和47年



昭和48年 人形劇（関西芸術座）



昭和48年 講演（中外日報社長 吉田留次氏）



昭和49年



昭和49年



昭和50年 演芸 若駒



昭和50年 搬送風景（株加納）



昭和51年 京都フィルハーモニー室内楽団



昭和51年 尺八 都水流 津田洲水 門弟中



昭和52年



昭和52年



昭和53年



昭和53年



昭和55年



昭和55年 代表園児勢揃



昭和56年



昭和56年



昭和56年 市民会館ロビーにて



昭和57年 総合司会（山田孝子氏）



昭和57年 河合楽器



昭和57年 母親教室（小橋一隆氏）



平成3年



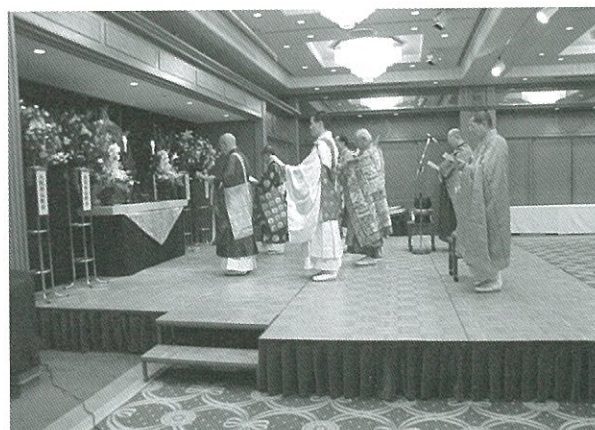
平成3年



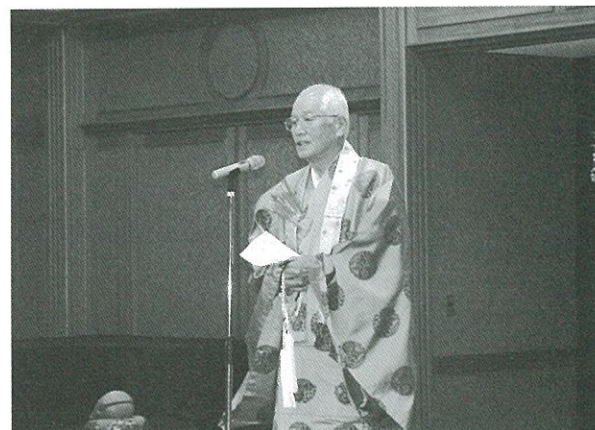
平成3年



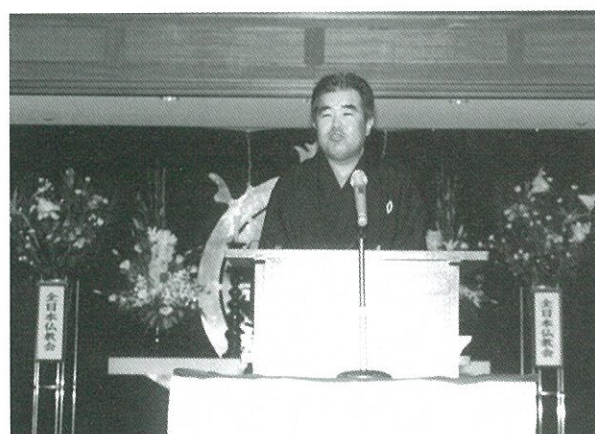
涅槃会第1回



記念法要



前会長 岩田隆一氏



旭堂南北氏



るんぴに太鼓



涅槃会第2回 記念法要



会長挨拶



涅槃会第2回 講演 露の新治氏



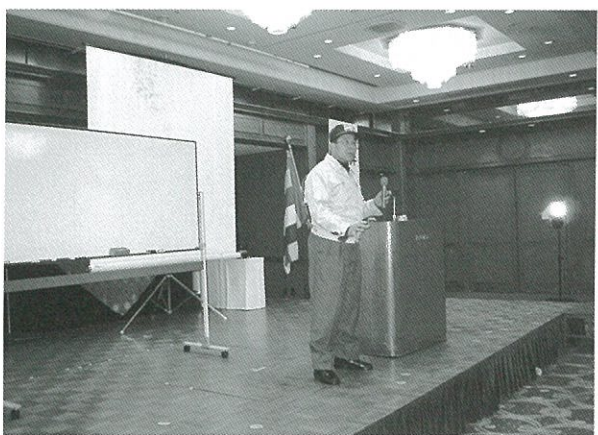
るんぴに太鼓



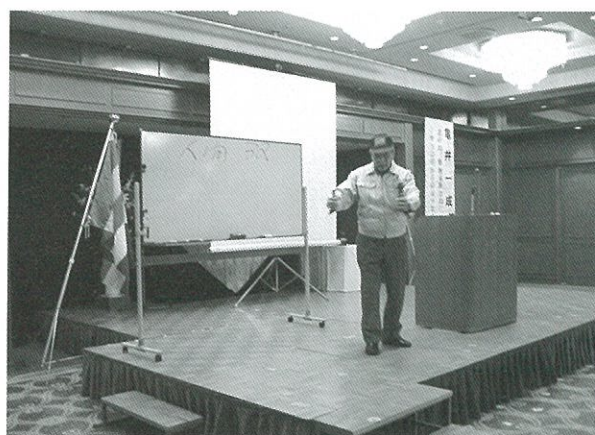
るんぴに太鼓



涅槃会第3回 講演 露の新治氏



涅槃会第4回 亀井一成氏



亀井一成氏



涅槃会第5回 講演 坂本 達氏



講演 坂本 達氏



涅槃会第6回 記念法要



コーラス ピースダーナ



バイマーヤンジン氏



バイマーヤンジン氏



涅槃会第7回 講演 高田都耶子氏



挨拶 中野寛成氏



研修会 テーマ：大震災が起きたとき寺はどうする？
黄檗宗自敬寺住職 服部隆志師



涅槃会第8回 二胡演奏 姜 曉艶氏



姜 暁艶氏と折重由美子氏



二胡演奏 姜 暁艶氏



クラビオーラ演奏 折重由美子氏



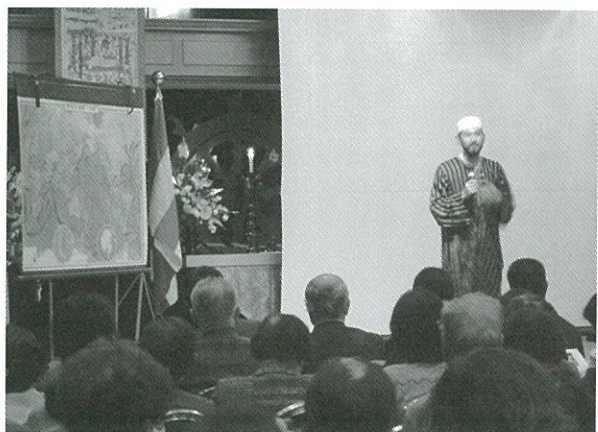
涅槃会第9回 豊中市長 浅利敬一郎氏



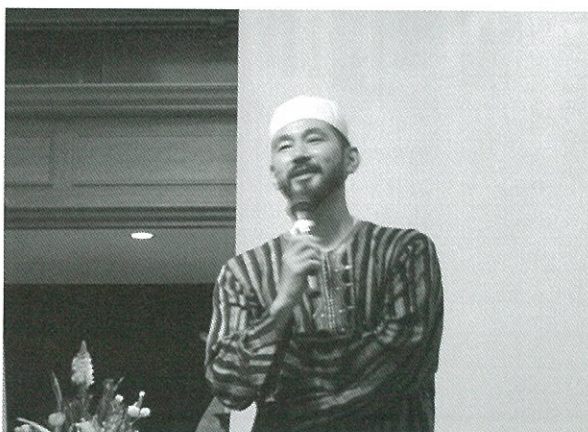
会長挨拶 村山廣甫氏



コーラス ピースダーナ



講演 坂本 達氏



坂本 達氏

豊中市仏教会会員名簿 五十音順

地図番号	寺 号	氏 名	郵便番号	住 所	電話番号	宗旨・宗派
1	安楽寺	秦 博文	560-0055	豊中市柴原町5-5-15	06-6856-3359	浄土宗
2	安楽寺	菊池 貞明	560-0011	豊中市上野西2-4-29	06-6856-3301	真宗興正派
3	永照寺	陰山 正信	561-0845	豊中市利倉2-10-10	06-6863-6396	浄土真宗本願寺派
4	圓照寺	柴田 光英	560-0041	豊中市清風荘1-15-1	06-6853-2290	日蓮宗
5	圓滿寺	伊串 善道	560-0032	豊中市蛭池東町1-13-12	06-6855-5518	曹洞宗
6	看景寺	豊島 了雄	560-0021	豊中市本町3-14-32	06-6852-4112	真宗大谷派
7	見龍寺	北谷 回孝	560-0054	豊中市桜の町7-3-13	06-6852-0306	曹洞宗
8	源福寺	平戸 昭乗	561-0834	豊中市庄内栄町1-24-17	06-6332-2446	浄土真宗本願寺派
9	光源寺	陰山 昌樹	560-0021	豊中市本町3-11-28	06-6852-5722	浄土真宗本願寺派
10	光國寺	榎原 清了	561-0835	豊中市庄本町1-7-9	06-6333-3349	浄土真宗本願寺派
11	興法寺	源 淳道	561-0811	豊中市若竹町1-3-15	06-6862-7079	浄土真宗本願寺派
12	金禅寺	辻岡 秀幸	560-0021	豊中市本町5-3-64	06-6849-5005	黄檗宗
13	根本寺	服部 玄朗	561-0884	豊中市岡町北3-5-25	06-6852-5207	日蓮宗
14	最勝寺	中井 賢隆	561-0824	豊中市大島町2-1-15	06-6331-0386	真宗仏光寺派
15	西福寺	榎原 清了	561-0813	豊中市小曾根1-6-38	06-6332-9669	浄土真宗本願寺派
16	西法寺	星野 親行	561-0803	豊中市城山町2-2-31	06-6862-0031	浄土真宗本願寺派
17	西琳寺	中村 明宣	561-0802	豊中市曾根東町5-4-5	06-6862-7880	浄土真宗本願寺派
18	正安寺	畠山 信龍	560-0044	豊中市刀根山元町9-21	06-6852-6022	浄土真宗本願寺派
19	正業寺	辻 岳明	561-0831	豊中市庄内東町5-10-21	06-6332-4119	浄土真宗本願寺派
20	浄久寺	森 祐昭	561-0884	豊中市岡町北2-11-17	06-6852-5190	浄土真宗本願寺派
21	正泉寺	嶋本 勝行	560-0045	豊中市刀根山2-4-13	06-6852-3720	曹洞宗
22	昭徳寺	山口 知丈	561-0862	豊中市西泉ヶ丘2-2419-3	06-6862-1465	真宗大谷派
23	純正寺	大岩 泰英	561-0859	豊中市服部豊町1-8-1	06-6852-0665	日蓮宗
24	常光寺	末政 無極	561-0813	豊中市小曾根1-15-33	06-6334-4550	浄土真宗本願寺派
25	浄徳寺	常原 康隆	561-0852	豊中市服部本町5-13-1	06-6862-7169	浄土真宗本願寺派
26	常楽寺	八田 勝文	561-0857	豊中市服部寿町2-9-12	06-6864-3012	曹洞宗
27	真覚寺	藤 多越	560-0085	豊中市上新田2-1-3	06-6871-0450	浄土真宗本願寺派
28	信行寺	岩田 仁	560-0025	豊中市立花町2-3-31	06-6841-3100	浄土真宗本願寺派
29	新福寺	水谷 進護	561-0825	豊中市二葉町2-2-23	06-6331-1094	日蓮宗
30	瑞祥院	中川 慈永	560-0084	豊中市新千里南町2-17-3	06-6872-0588	真言宗
31	瑞輪寺	阪田 浩章	561-0881	豊中市中桜塚2-2-24	06-6857-5192	黄檗宗
32	誓願寺	渡邊 智行	561-0808	豊中市原田元町2-4-8	06-6857-3000	真宗大谷派
33	専敬寺	山上 隆治	561-0892	豊中市山の上町12-19	06-6852-0447	浄土真宗本願寺派
34	専光寺	笹島 勝恵	561-0842	豊中市今在家9-9	06-6863-6637	浄土真宗本願寺派
35	専宗寺	小寺 正顕	560-0014	豊中市熊野町2-4-2	06-6854-0174	浄土真宗本願寺派
36	善徳寺	好井 正良	561-0831	豊中市庄内東町3-12-20	06-6331-3745	浄土真宗本願寺派
37	超光寺	藤前 唯信	560-0035	豊中市箕輪1-24-5	06-6852-6645	浄土真宗本願寺派
38	長壽寺	渡邊 篤	560-0033	豊中市蛭池中町2-7-10	06-6852-4341	浄土真宗本願寺派
39	地藏院	原田 隆文	560-0054	豊中市桜の町4-8-8	06-6843-6868	曹洞宗
40	東光院	村山 廣甫	561-0882	豊中市南桜塚1-12-7	06-6852-3002	曹洞宗
41	藤井寺	松井 正孝	561-0803	豊中市城山町2-2-23	06-6862-3734	法華宗
42	徳用寺	藤政 順三	561-0857	豊中市服部寿町3-1-5	06-6863-4200	真宗大谷派
43	徳林院	佐々木隆晶	560-0085	豊中市上新田2-4-14	06-6831-9329	浄土宗
44	南昌寺	本莊 廣司	561-0831	豊中市庄内東町3-5-11	06-6332-1575	曹洞宗
45	念仏寺	岩瀬 友泰	561-0875	豊中市長興寺北2-8-6	06-6854-6526	浄土宗
46	梅林寺	木下 大朗	560-0044	豊中市刀根山元町5-11	06-6852-6432	曹洞宗
47	不動院	田中 智照	561-0852	豊中市服部本町1-8-21	06-6863-2120	真言宗
48	佛眼寺	長瀬 光彰	560-0014	豊中市熊野町4-8-1	06-6852-0063	曹洞宗
49	法雲寺	辻本 純孝	560-0021	豊中市本町3-10-5	06-6852-1019	浄土真宗本願寺派
50	報恩寺	桜井 義超	560-0052	豊中市春日町2-6-1	06-6852-1243	浄土真宗本願寺派
51	寶珠寺	芳丸 龍英	560-0014	豊中市熊野町3-10-1	06-6849-9228	浄土宗
52	法華寺	大岩 泰英	561-0801	豊中市曾根西町2-13-14	06-6852-0679	日蓮宗
53	明悟院	柳田 祖順	560-0023	豊中市岡上の町1-1-8	06-6852-2281	曹洞宗
54	明福寺	小畑 元昭	561-0831	豊中市庄内東町3-16-1	06-6331-3574	浄土真宗本願寺派
55	唯佛寺	田原 翠成	561-0815	豊中市豊南町南4-5-15	06-6332-2300	真宗大谷派
56	養照寺	丸川 司文	561-0813	豊中市小曾根1-8-8	06-6334-2905	浄土真宗本願寺派
57	蓮敬寺	向野 信昭	561-0843	豊中市上津島2-22-25	06-6863-2299	浄土真宗本願寺派

浄土宗

けんとかざん ちげんいん あん らく じ

見徳山 智眼院 安楽寺

宗祖 法然上人
本山 知恩院(京都市)
本尊 阿弥陀如来

住所 豊中市柴原町5-5-15 〒560-0055
交通 大阪モノレール「柴原」下車徒歩5分
電話 06 (6856) 3359 FAX 06 (6856) 1750
mail anrak@tcct.zaq.ne.jp
住職 秦 博文 第41世

開創・由緒

伝承・記録に、『豊嶋郡に三大寺あり、金泉寺、安楽寺、北輪寺と言う。織田時代、天正の兵火により、一時断絶。乗蓮社円誉離念無為和尚が中興開山。円誉離念上人は、武蔵国岩槻の人、岡田氏。川越の蓮馨寺に修学し熟学、花洛にいたり大師(法然上人)の廟を拝し、近国を遊化す。その折、摂津国豊島郡桜井谷柴原にて見得(徳)山安楽寺を、「この地に建立在りしに天正年中伊丹城主荒木摂津守村重の為に焼失せし」と歎息し、正保元年(1644)再興した』とある。『桜井谷郷土史』『浄土宗大年表』)

主な文化財など

- ①「阿弥陀来迎図」一幅:箱書きに「蓮糸産髪之御織地阿弥陀如来絵像」とあり、「横佩大臣(よこはぎのおとど)の姫君中将法女が宝亀6年(775)3月、両親の菩提を弔って織ったもので、文化年間聴誉代(1810年代)に土中より出現」と記され、蓮糸で織られたと伝わる弥陀三尊来迎図である。(新修豊中市史第6巻「美術編」)
- ②六斎念仏:昭和30年代まで柴原六斎講があり伝承されていた。羽織袴で正装して葬儀の出棺時、初盆の施主家等で唱えられていたが、現在は伝承者が亡くなり、太鼓、鉦、講旗、提灯を保存している。(新修豊中市史第7巻「民俗編」)
- ③園井東庵墓碑:豊中の「赤ひげ先生」と言われた園井東庵(天明6年1786没)の墓がある。麻田藩ご典医。岡村に住み、名医であったが奇行で知られ、晩年は刀根山に住んだ。貧しい人からはお金を取らずに治療したので、東庵を慕って岡村と刀根山村の村民は義斎明神として敬い祀った。

生涯独身であったためか、当時に永代供養されている。百回忌に北刀根山墓地に分骨され、百五十回忌には刀根山御坊に顕彰碑が建立されている。(豊中市広報「豊中の民話」に採録)

- ④ソテツ:樹齢400年と思われる大ソテツ、豊中市の天然記念物。亜熱帯の植物であるが豊中の気候に馴化し、雌株で毎年花を咲かせ実をつける。(新修豊中市史第3巻「自然編」・豊中市広報「とよなか百景」)

法要・行事

- ①定例法要:修正会、春秋彼岸法要、盆施餓鬼法要、十夜法要の他、五重相伝会など。
- ②主な行事:月1回のコーラス、春秋の講習会や講演・コンサート、バスによるお寺巡り、中学生の「職場体験学習」の受け入れなど。



本堂 全景



豊中市天然記念物 大ソテツ

真宗興正派

みょうしょうざん あん らく じ

明照山 安楽寺

宗祖 親鸞聖人
本山 興正寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来

住所 豊中市上野西2-4-29 〒560-0011
交通 阪急バス豊中高校前下車1分
電話 06 (6856) 3301 FAX 06 (6856) 3550
住職 菊池 貞明

沿革

三代前の住職 菊池覚明師が 大正末期
大阪市北区大淀より「豊中市内における 真宗興
正派唯一の寺院」として現地に木造平屋建ての
本堂を建立しました。その老朽化に伴い 平成元
年 現本堂に建て替え、現在に至っています。

年中行事

春季彼岸会……彼岸の中日

秋季彼岸会……彼岸の中日

報恩講……………11月3日

住職のひと言

より快適な布教活動を行う為に、本堂外陣には
床暖房を設置しています。また、平成18年には、皆
さんの要望により 椅子席になりました。

アクセス

【阪急豊中駅から】

バスご利用の方は2番のりば、又は3番のりばから
乗車して頂き、梅花前又は豊高前でお降り下さい。
(どのバスでもご乗車して頂けます)

【千里中央駅から】

バスご利用の方は1番のりばから乗車して頂き、梅
花前又は豊高前でお降り下さい。(どのバスでもご
乗車して頂けます)

【タクシーの場合】

豊高前の安楽寺とお伝え下さい。



平成元年落慶の現本堂



無量寿堂(納骨堂)

浄土真宗本願寺派

こうじょうざん えい しょう じ

高城山 永照寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺（京都市）
本尊 阿弥陀如来（南無阿弥陀佛）

住所 豊中市利倉2-10-10 〒561-0845
交通 阪急宝塚線「服部」西へ1.5km
電話 06（6863）6396 FAX 06（6863）8746
住職 陰山 正信

沿革

当寺は僧正行基の開基で高城寺と称していたが、884年火災に遭い堂塔を焼失する。894年僧智心が再建して旧観に復したが、1335年楠正成が足利尊氏を湊川に拒ぐとき、その某武将が利倉村に火を放ち村内悉く焼亡した際に、当寺も焼け落ちる。1351年僧信安が再建し、その後1497年蓮如上人に帰依し、真言宗より浄土真宗に転じて寺名を今の称に改める。下って1578年織田信長が荒木村重を討伐する際、高山右近の劫火により再び焼失する。その後は小堂で法灯を継承していたが、1779年、僧唯西、素順により本格的に再建された。しかし、1995年阪神淡路大震災により倒壊する。1998年写真にある本堂、山門、鐘楼等を再建する。



阪神淡路大震災後、復興された本堂 山門

行事

4月—永代経法要

11月—報恩講法要

他に、年末年始、春秋彼岸、お盆等法要を行っている。



阪神淡路大震災後、復興された鐘楼

日蓮宗

みょうほうざん えん しょう じ

妙法山 圓照寺

宗祖 日蓮聖人
本山 身延山 久遠寺(山梨県)
本尊 久遠実成本師釋迦牟尼佛

住所 豊中市清風荘1丁目15番1号 〒560-0041
交通 蛍池駅 石橋駅
電話 06 (6853) 2290
住職 柴田 光英

由緒

摂津の国、豊能郡桜井谷大字北刀根山、金坂池より南西方の丘陵に『丸山の大塚』と呼ばれる高さ約10m、直径約20m、周りに幅2m程の堀を廻らした約1250年程前の藤原鎌足公の末裔で魚名の子、藤原貞彦とその家臣の藤原為信、吉田定頼の古墳があった。

昭和22年春、開山本紫院日良上人が『刈りた真竹も蓄伏して 又来る春に生えしげる 題目を唱えよ・題目を唱えよ・一心欲見佛不自借身命』

『我本行菩薩道法樂莊嚴』等の靈示を感得し、丸山尊靈の法華經流布、人類浄化に尽くすという意向を深く心に刻み、昭和37年に妙法山圓照寺を旧跡に建立。昭和43年中国縦貫高速道路建設の為やむなく丸山旧跡と共に現地に移転。明治初期、大塚を壊した時に出土発見された古墳後期頃までに作製されたものと推定される『壺』と共に当山縁起の丸山大善神と称して三尊像を奉祀する事となる。

本堂

本堂には正面に身延山第86世一乗院日静上人筆の十界大曼荼羅ご本尊、その前に釈尊、四菩薩、鬼子母神等27尊像、向かって右脇には七面大明神大黒尊天等5尊像、左脇には聖観音等4尊像、四方に四天王、28宿神が奉安されている。祖師堂には日蓮大聖人。本堂の北側には刀根山北谷の井戸に出現された水神天王が靈示により当山に祭祀されている。

行事

年中行事としては春、秋季彼岸会、孟蘭盆会は勿論、各人本年の善星皆来悪星退散、年中無難をご祈祷、修法加持と星守りを授け、福引や福豆太巻を供養する『節分会』。夏の土用の丑の日に丸山堂にて頭痛封じのご祈祷をする『ほうろく灸』や、日蓮大聖人涅槃会法要を厳修し、特別加持を授け ぼた餅供養する『お会式』等年間を通じて御祭神の種々行事を執り行う。



雪化粧の境内



山門(圓照寺正面)

曹洞宗(禪宗)

えいねんざん

えん

まん

じ

延年山 圓満寺

宗祖 道元禪師

本山 永平寺(福井県)・總持寺(神奈川県)

本尊 阿弥陀如来

住所 豊中市蛍池東町1丁目13-12 〒560-0032

交通 阪急宝塚線・大阪モノレール「蛍池」駅下車
大阪側東南へ100m徒歩4分

電話 06 (6855) 5518 FAX 06 (6855) 3994

住職 伊串 善道

縁起・沿革

南蛍池の丘に建つ大阪の北に位置する阪急蛍池駅東南にある寺院です。かつて聖武天皇の時代天平元年(729年)に行基菩薩がこの附近の新免の庄を中心に建立した金禅寺という大伽藍の一字であった。しかし度重なる災禍により焼失し、元は古義真言宗であったとされるが、後年現在の地に再建され、禪曹洞宗に改めて延年山圓満寺と称す。阪急沿線西国七福神霊場として「福祿壽」を安置し七福神めぐりとしても知られている。

仏像(文化財)

本尊で木造「阿弥陀如来坐像」の本尊は平安時代後期の古い時期に属する構造であるとされる。又慶安2年(1649年)と享保4年(1719年)の2度にわたり再興されてきた。昭和62年(1987年)9月1日豊中市指定文化財の指定を受ける。

風物詩

春は「桜」が満開の頃は見事です。

秋は「紅葉」が美しいです。豊中市新百景に指定されています。

有名人の墓所

中馬庚(ちゅうまかのえ)1870(明治3)年鹿児島県の生まれ、明治27年に書かれた書籍に日本で初めて、ベースボールに「野に遊ぶ球技」として『野球』という訳語をつけた人物です。昭和40年に功績をたたえられ野球殿堂入りを果たしています。



木造 阿弥陀如来坐像

年中行事

2月 松島稻荷大明神初午大祭

4月 大般若祈祷法要

8月 孟蘭盆会施食会法要

12月 大晦日除夜の鐘は参詣者に撞いて
いただいています。

6・10月 写経会(般若心経)



山門正面

真宗大谷派

しめいざん さんしゃいん かん けい じ

四明山 山車院 看景寺

宗祖 親鸞聖人
本山 東本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来

住所 豊中市本町3-14-32 〒560-0021
交通 阪急豊中駅徒歩東3分
電話 06 (6852) 4112 FAX 06 (6850) 1155
住職 豊嶋 了雄 (26代法灯 真宗17世)

縁起・沿革

飛鳥の昔、金寺は物部連金の氏寺であっただろうと言われる。すなわち現在の本町7丁目稻荷神社東方辺に当寺は位置し、その数ある塔頭の一寺が看景寺と伝え聞く。その金寺も白鳳の頃には廃滅の一途を辿る。

看景寺は聖武天皇(730年頃)天平時代に法相宗の僧行基により金寺本坊の西南方に再建された。天正6年(1578年)織田信長の麻田藩主荒木村重攻めの兵火に罹り烏有に帰し、これを機に現在地(本町3丁目14-32)に移ることになる。なお、元の地は本町5丁目辺にあたり、寛文3年(1663年)鉄源和尚が金禅寺を創建する。

元禄11年(1698年)同信同行の力を得て再々建されたのが現在の本堂である。当時は厳しい緊縮財政の最中であつたとみえて「結構な彫り物、華美な様式等一切ご法度」の通達が奉行書からあつた旨記録されている。

旧三車之荘(轟之荘)、後の新免之荘にちなみ三車院とも通称された。看景寺通鑑によれば千里山を望む大岡にあり四方の眺め明らかに景色を見るに極めて宜しとして四明山看景寺と号し承久2年(1721年)豊嶋蔵人高瀬の長男、同冠者左衛門尉高常戦功を失い山中に閑居の傍ら寺務を司り、創め真言宗に属するも、文明7年(1475年)本願寺第8世蓮如上人摂津國富田に巡化の砌、豊嶋陸奥守常頼その教えを請い弟子となり法名を常圓と改め、真筆六字名号(現存)を賜り真宗に帰依すと。中興の祖と仰ぐ所以である。本願寺第11世

顕如上人、後に徳川家康の寄進により東本願寺を創建するや縁に連なって東本願寺末(大谷派)となる。

境内には、飛鳥時代考古資料である「金寺廃寺塔刹柱礎石」があり、大阪府有形文化財に指定されている。また昭和4年に本町7丁目5-14辺から発掘された6世紀頃のものと推定され石室墳墓石棺に納められた遺骨を境内東南五輪塔墳墓に埋葬し、往事を偲ぶ。

石室発掘に立ち会った故牧野庄太郎氏の言によれば、この石棺の東方に一基、東北東に一基が三角形をかたどった石室墳墓の現存が確認されているが、まだ追悼の機を得ることもなく、邸宅の下積みの眠りを余儀なくされているという。勿体なくも哀し。



本堂全景



金寺塔礎石(府重文)

曹洞宗(禅宗)

しょうげつざん けん りゅう じ

照月山 見龍寺

宗 祖 道元禅師
本 山 永平寺(福井県)・總持寺(神奈川県)
本 尊 十一面觀世音菩薩

住所 豊中市桜の町7-3-13 〒560-0054
電話 06 (6852) 0306
住職 北谷 回孝 (現在11世)

伝 承

旧桜井谷野畑春日神社の隣に境内地寄附者澁谷道清入道春照神主嘉永4年4月17日命日回向勤者也、8世実道代に立派なお位牌をつくり、現在もおまつりしています。明治の廃仏毀釈の折り村の集会所として移転しました。横には鐘樓堂もありましたが、鐘は大東亜戦争で応召し、献納しました。当時より写真の立石此橋牛馬無用、左には宝暦6年丙午3月、右には施工天満3丁目塗屋才兵衛と刻んであります。現在は他所のお庭の真中で石の橋の横に残っています。こどもたちは、これをとび箱にして、よく遊んでいました。此の頃、夜は蛍がとび、昼は千里川のお水がきれいで洗濯や深いところでは、水遊びでとても賑やかでした。大人も小人も村のお寺として、親まれみんな一生懸命によく働いて、平和な時代でした。

指 針

お寺の庫裡に和光同塵、本堂に宝儉(古文)西田王堂の書で額を掲げています。
毎月18日(觀世菩薩御縁日)に写経会来年35周年
毎週土曜日朝太極拳 来年10周年迎えます。みんなが幸せで健康でありますよう願っています。



此橋牛馬無用

浄土真宗本願寺派

おおじざん げん ぶく じ

皇子山 源福寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)

住所 豊中市庄内栄町1-24-17 〒561-0834
交通 阪急宝塚線「庄内」駅下車、西へ徒歩10分
電話 06(6332)2446 FAX 06(6332)2462
住職 平戸 昭乗

縁起と沿革

寛永年間(1624~1643)、当地を所領した大嶋肥前守が、任地に就くに当たり、当寺を大嶋家累代の菩提所となし、寺領を与え、位牌を奉安して開創されたと伝えられています。

宝永元年(1704)、当嶋田村の平戸治郎右衛門が、西本願寺14代寂如宗主に帰依して、法名教祐(源福寺初代)と名乗り、一村協力して一字の道場を創建しました。

慶応元年(1865)、猪名川の大洪水により、本堂・庫裏などを流失しましたが、源福寺10世僧梁が水中に身を投じ、御本尊の阿弥陀如来御像を背にくくり、両手には大嶋家御位牌を抱きて収容し仮本堂に奉安しました。

昭和10年(1935)、前年に改築された堂宇に、大嶋家後胤大嶋雲八陸軍少将が参拝のために立ち寄っています。

平成7年(1995)、現在の本堂・庫裏・山門を源福寺13世昭秀と門信徒の御協力により再建されました。

法要と行事

1月2日……………修正会(元旦会)法要
4月中旬……………観世音菩薩法要
10月中旬……………親鸞聖人報恩講法要
2・4・6・8・12月の15日…定例法座(仏事に親しむ会)



現本堂(正面)



本堂・山門(全景)

浄土真宗本願寺派

ひのさん こう げん じ

日野山 光源寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)

住所 豊中市本町3-11-28 〒560-0021
交通 阪急宝塚線「豊中」下車 北へ徒歩5分
電話 06 (6852) 5722 FAX 06 (6852) 5722
住職 陰山 昌樹

沿革

開基道誓 俗名辻本又兵衛。文禄元年(1592年)、本願寺第11世顕如宗主に帰依し、承応元年、当寺を開創する。現在の本堂は平成9年に再建されたものである。

年中行事

1月1日……………修正会
3月20日……………春の彼岸会法要
5月19、20日……………永代経法要
9月20日……………秋の彼岸会法要
11月19、20日……………報恩講法要

定例法座

毎月20日



親鸞聖人



山門と本堂

浄土真宗本願寺派

りしょうざん こう ほう じ

利生山 興法寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀佛)

住所 豊中市若竹町1-3-15 〒561-0811
交通 阪急宝塚線「服部」下車北北東へ1km
電話 06 (6862) 7079 FAX 06 (6862) 7079
住職 源 淳道

由来

興法寺の開基は、摂州橘御園庄今福村(現在の尼崎市今福)に住む今福左衛門源道悟(源経基の子孫)という一郷守護の武士で、承元元年(1207年)3月ごろ、法然上人が神崎に立ち寄ったとき、その教化にあずかり、さらに天福・天暦年間(1233～34年)に親鸞聖人が関東から帰洛の節、一座のご勸化をうけ歓喜の涙身に余り、早速今福村に一字を建立、翌年(1235年)御礼のため上洛し、親鸞聖人より御法を興した法師として寺号を利生山『興法寺』と賜り、以来第11代源専宗まで今福村に在住した。

その後、天正2年(1574年)に顕如上人が法敵織田信長と合戦を交えたとき、第11代源専宗が加勢を申し上げたことを織田信長が恨み、今福村道場を焼討せよと配下の桜井なる武士など多勢を差し向けたので、源道堅(専宗の父)は肌袈裟をつけ、その上に甲冑を身にまとい戦ったが、我が方利なく、神崎堤にて戦死し、道場も焼失した。

源専宗はさらに、顕如上人のお供をして和歌山の鷲森まで戦ったが、天承8年(1580年)に織田信長と和睦が成立し戦乱もおさまり、世間も静かになったので摂州豊能郡石蓮寺の里(現在の豊中市若竹町)に堂宇を建立した。

第12代源祐宗が、慶長10年(1605年)に門信徒の協力を得て再建したのが現在の利生山『興法寺』の本堂である。

法要・行事

法 要：永代経法要(4月末の土曜・日曜)
報恩講(10月末の土曜・日曜)
常例法座：毎月3日午後7時から



本堂



縁起が書かれた石板

黄檗宗(禪宗)

だいおうざん こん ぜん じ

大應山 金禪寺

宗 祖 隱元隆琦禪師
本 山 大本山 萬福寺(宇治市)
本 尊 十一面觀世音菩薩(有形文化財)

住所 豊中市本町5-3-64 〒560-0021
交通 阪急宝塚線「豊中駅」下車 南口より徒歩7分
電話 06(6849) 5005
住職 辻岡 秀幸

由 来

抑も当寺は寛文十一年大阪難波瑞龍寺(通称てつげん寺)の開山鐵眼禪師が開かれた八ヶ道場の一つであります。当寺の前身は今を距たる天平年間行基僧都の開創に成る七堂伽藍を具備せる大刹にて往時のかなで千坊の威容を誇ったものと伝えられます。

当時この地は上總国(千葉県富津市)飯野藩主保科禪正忠公(二萬石菩提寺は千葉の浄土宗浄信寺)当地一帯の所領なるを以て(豊中市新免勝部小曾根走井)当時大超和尚にはかり堂字の再建尊像の重装など完成し金寺に禪の一字を加え「金禪寺」号を「大應山」と称し京都宇治黄檗山万福寺の末寺に属しました。

同師の受業師大阪難波鐵眼道光禪師を中興開山(第一代)に迎え次いで本師宝州道總禪師を第二代に大超禪師を第三代としました。

爾來寺運隆々久しかったが文化三年正月五日、本堂を残し開山堂、経藏、參禪堂、庫裡などすっかり焼失し十三代活禪和尚の時再建しました。明治に至り大担君保科氏の家祿奉還に遭い以来無祿寺となり今日に及んだもので当寺には保科家一族の御位牌のみ安牌してあります。

本尊十一面觀世音菩薩(府有形文化財、正安二年七月十二日、約六百八十年鎌倉前期)は秘仏にて御丈五尺に余り其の端麗美妙なる容姿を今に伝えており胎内には觀音經一卷、心經一卷外、重装大悲像記(てつげん遺祿に在り)及び願主尊信外多数の施主名が墨書内蔵してあります。

亦脇侍仏の獅子文殊菩薩像と白像普賢像は共

に元禄十一年寅三月吉日の作であります。本尊十一面觀世音菩薩像は度重なる天災戦禍にも難を免れ給うたもので当寺の南方数十米に在る觀音池(現觀音池公園)の池底より光明赫炎と出現し給うた靈像でありまして古今靈応空しからず彼の大慈大悲の觀世音菩薩を一心に念ずれば、この世の中の全ての苦悩は廣大無辺の觀音妙智力を以て即時音声皆得解脱すること福寿海無量であります。

尚、現在の本堂は阪神淡路大震災で半壊のため、平成18年に報恩記念事業により新築されたものです。



山門

日蓮宗

ほうちゅうざん こん ほん じ

豊中山 根本寺

宗 祖 日蓮聖人
本 山 久遠寺(山梨県)
本 尊 久遠実成本師釈迦牟尼仏

住所 豊中市岡町北3-5-25 〒561-0884
交通 阪急宝塚線「岡町」下車 西北へ徒歩7分
電話 06 (6852) 5207 FAX 06 (6852) 5207
住職 服部 玄朗

創建・沿革

御開山は根本院日泰上人で、根本道場をその前身とする。上人早くより本化妙法の弘通を志し布教の法城たる一箇寺建立の念願を抱いて、京都・大阪などを遊行、伝道に尽くされた。この間20年の歳月を費やし、ついに豊中市岡町の現在地を得てこれを境内地として根本道場を創設(1935年)。半生をかけての悲願の成就するところとなった。

年中行事

新年祝祷会……………1月 元日
厄除星祭……………2月 日曜
春季彼岸会……………3月 ♪
花まつり……………4月 ♪
永代・水子供養……………5月 ♪
お盆せがき法要……………8月
秋季彼岸会……………9月
お会式……………11月3日
月例祭……………毎月8日
先祖・水子供養……………毎月25日



根本道場



真宗佛光寺派

さい しょう じ

最勝寺

宗祖 親鸞聖人
本山 佛光寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来

住所 豊中市大島町2-1-15 〒561-0824
電話 06 (6331) 0386
mail kenryu@poppy.ocn.ne.jp
住職 中井 賢隆

由緒

文禄元年(1592)、摂州・洲到止村(現・豊中市大島町)に居住する篤信者、中井四郎兵衛なる者、この地に念仏興隆をと一念発起し、本山佛光寺に帰依し得度。

ときの佛光寺第17代宗主・大悲院存海上人より、「釋林西」と法名を賜わる。

お念仏に帰依する御同朋、御同行、意を同じくし挙りて財を出し、悲願であった堂宇を創建。

佛光寺より、本尊・阿弥陀如来と共に寺号を「最勝寺」と賜わる。

ここに釋林西法師、開基となる。

以来、最勝寺は量り知れない多くのご門徒に支えられ、その法灯は消えることなく、現代に受け継がれている。

本堂

伝道の歴史に比例して、堂宇の老朽著しく、昭和49年(1974)惜しまれつつ、遂に解体。

現在の本堂は、ときの住職・釋眞隆法師(現住職の父)が、往来の利便性を考慮し、その地を150メートル北へ転移。

渾身の力をふりしぼり、来たるべく新しい時代に向け、他に類を見ない鉄筋3層、斬新かつ荘厳華麗なる本堂を建立。

時代は移り変わろうとも、先人からの願いは変わらず、聞法の道場として今日に至っている。

寺宝

本尊阿弥陀如来立像は、鎌倉時代の作と伝えられ、阿弥陀如来座像は室町時代に中国より伝来と伝わる。通称「歯吹きの如来」。

親鸞聖人伝絵四幅、また源信僧都往生要集四幅は、江戸中期のもので、殊に華麗。



本堂



鐘楼

浄土真宗本願寺派

おぞねざん
小曾根山
しょういんざん
(旧正因山)

さい ふく じ
西福寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀佛)

住所 豊中市小曾根1-6-38 〒561-0813
交通 阪急宝塚線「服部」下車 東へ900m
電話 06 (6332) 9669 FAX 06 (6332) 9692
住職 榎原 清了

由緒

源頼信の十世後胤、榎原式部太夫頼貞の長男であった頼愨によって延慶元年(1308)に天台宗として開創されたと伝えられている。頼愨は出家して乗雲と称したが、その後文保2年(1318)に本願寺第三世覚如上人に帰依、真宗に転じ道念と称した。本堂の創建は、正徳2年(1712)の火災により文献類も消失したため不詳。現在の本堂は享保3年(1718)十五世住職了弘が檀徒と協力し再建されたものである。

寺宝(文化財)

鐘楼、太鼓楼を左右に構えた医薬門をくぐると、境内いっぱいに「扇松」と呼ばれるクロマツが広がる。本堂再建時に記念植樹されたと伝わり、その見事さにかっは「松の寺」とも呼ばれた。境内には南北朝のものと思われる宝篋印塔基礎石(市指定文化財)が残り、また本堂余間の伊藤若冲画『仙人掌群鶏図』は特に有名である。



本堂と扇松(太鼓楼より撮影)

伊藤若冲と西福寺

“鶏の画家”若冲の集大成とされるのが当寺所蔵の『仙人掌群鶏図』である。京都を襲った天明の大火により居宅をはじめ作品を失い悲嘆にくれる若冲を暖かく迎え入れたのが当寺の檀家であった大阪鰻谷の薬種問屋の主人吉野五運である。五運と住職に依頼され当寺に長期滞在し、五運寄進の金襖に「仙人掌群鶏図」を描き上げ「蓮池図」他の作品を残した。(現在共に重要文化財指定)旧国宝のこの作品は、昭和48年に国際文通週間の記念切手の図柄、59年に豊中市立アクア文化ホールの緞帳、平成5年には近畿版年賀はがきの図柄にも選ばれた。画作一途に生きた若冲作品は近年さらに高い評価を受けいよいよ輝きを増しつつある。(年1回 11月3日(文化の日)に虫干し公開)



若冲没後200年「若冲特別展」の会場
京都国立博物館メインホールに展示された若冲筆「仙人掌群鶏図」重文

浄土真宗本願寺派

ほしのざん さい ほう じ

星野山 西法寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)

住所 豊中市城山町2-2-31 〒561-0803
交通 阪急宝塚線「服部」下車 北東へ800m
電話 06 (6862) 0031 FAX 06 (6865) 1560
住職 星野 慎行(親行)

系譜

星野山 西法寺は寺伝によれば天文三年(1534)五月八日に星野四郎太夫(法名 了忍)が本願寺第十代 證如上人に出願して、一貫代の「弥陀仏ノ画像ヲ請シ」念仏道場を建ててこれを安置したのが始まりとされています。寛文十二年(1672)五月三日 本願寺第十四代 寂如上人より正式に寺号が許され「始テ西法寺ト称ス」とあります。以下に歴代住職と現在の年中行事をご紹介します。申し上げます。

合 掌

歴代住職

初代 釋了忍 天文三(1534)～?

(以下 不詳)

四代 釋了西 ?～?

五代 釋西念 寛永七(1630)～?

六代 釋淨年 寛文四(1664)～延宝九(1681)

七代 釋念正 ?～元文二(1737)

八代 釋念貞 ?～宝暦七(1757)

九代 釋念誓 ?～天明四(1784)

十代 釋念随 天明五(1785)～文政三(1820)

十一代 釋了念 文政三(1820)～文政六(1823)

十二代 釋了雲 文政七(1824)～天保八(1837)
(了音)

十三代 釋念心 天保八(1837)～嘉永元(1848)

十四代 釋念脩 嘉永二(1849)～文久三(1863)

十五代 釋念證 元治元(1864)～大正十四(1925)

十六代 釋修観 大正十四(1925)～昭和三五(1960)

十七代 釋清観 昭和三五(1960)～平成三(1991)

十八代 釋慎行 平成三(1991)～

行事

一月……………門信徒会総会
二月十三日……定例法座(午後二時～)
三月十三日……定例法座(午後二時～)
四月……………永代経法要(二日間)
五月十三日……定例法座(午後二時～)
六月十三日……定例法座(午後二時～)
七月十三日……定例法座(午後二時～)
九月十三日……定例法座(午後二時～)
十月……………報恩講法要(二日間)
十一月十三日…定例法座(午後二時～)
十二月十三日…定例法座(午後二時～)
十二月三十一日…除夜会法要(午後十一時半～)



西法寺お内陣



親鸞聖人と春の西法寺

浄土真宗本願寺派

おうちょうざん さい りん じ

應頂山 西琳寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)

住所 豊中市曾根東町5-4-5 〒561-0802
交通 阪急宝塚線「曾根」下車東へ400m
電話 06 (6862) 7880
住職 中村 明宣

沿革

應頂山西琳寺は、赤松則村の一族で、西播磨に住した中村壱岐守村重の長男中村美作守重直が天正の戦乱により、上月氏、高岡史とともに有馬、荒巻を経て、曾根・岡山の地に落ち延び、移り住んだことに始まります。戦乱の世の無常を厭い出家、本願寺准如上人に帰依し、宗善と法名を賜り所有の地に一字を建立しました。寛永7年(1630年)に寺号公称を許され、同12年97歳で還浄しました。元禄8年(1695年)に自庵を認められ、現在15代目になります。

なお、最近の研究で、この地は、伊丹城主荒木村重を攻めるため、中川清兵衛とともに古田佐介(古田織部)が城を置いた所だと指摘されています。



山門 鐘楼 本堂

主な仏像と建造物

本尊は阿弥陀如来立像(渡辺康雲作)です。他にこの地にあった閑好庵の本尊定印一木造の阿弥陀如来座像(平安時代末)が伝えられています。

本堂は、それまでの建物が大破したことにより享保8年(1723年)第6代養元が再建、第二次大戦の二度の空襲・阪神大震災を経て現在に至ります。薬医門は創建当初からのもので、鐘楼は天明8年(1789年)に建立され元治2年(1865年)に修復されたものです。いずれの建物もこの地(岡山村、曾根村、長興寺村)で焼かれた瓦で葺かれていました。



本堂 内陣

浄土真宗本願寺派

たいけんざん しょう あん じ

待兼山 正安寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来 (南無阿弥陀佛)

住所 豊中市刀根山元町9-21 〒560-0044
電話 06 (6852) 6022 FAX 06 (6852) 6563
住職 畠山 信龍

由緒

明応七年(1498)、開基正住 俗名 山口与右衛門が蓮如上人に帰し、大永元年(1521)九月道場を創立す。正住屋敷と通称され、現寺院のやや北西にあった。六代の間、ここに住せしが、第六世道誓、常楽台第十世準賢上人に帰し、当懸所境内に移転して寺中となる。元和元年(1615)、檀家協力して再興せしも、その後大破に及び、第十三世観讓文政五年(1822)再建。明治四十四年五月、第十六世祝角音 庫裏を改築。平成七年一月十七日阪神大震災で庫裏半壊の為、平成八年三月、第二十世信龍 庫裏を新築す。

また、境内の一画に動物墓地がある。これは先代の住職が昭和三十一年に創設し、今も香の絶えることがない。年に一度の動物追悼法要には二〜三百人の参詣者で賑わう。

常楽寺

当境内地にはもう一つ寺がある。豊嶋山 常楽寺は通称刀根山御坊と呼ばれ、本願寺第三世覚如宗主の嫡男である存覚上人が、貞治二年(1363)二月当国行化の際、豊嶋庄(現在の池田市北轟木あたり)に、一字を建立されたのが始まりである。当時、山門の前には「下馬札」が立てられ、いかなる大名と雖も馬に乗ったまま通り過ぎる事はできなかったようです。その後、当刀根山の地に移って来たと言われておりますが、移転年月は疑わしき点が多く不明。また当地は、昔、織田信長が伊丹城主荒木村重を攻撃する為に建てた刀根山城跡である。



動物墓地



全景

浄土真宗本願寺派

こうこうざん

しょう

ごう

じ

香光山 正業寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀佛)

住所 豊中市庄内東町5-10-21 〒560-0831
電話 06 (6332) 4119 FAX 06 (6332) 4119
住職 辻 宗淳(岳明)(第16世)

沿革

当寺は昭和20年6月の空襲で全焼し、あまり文書も残っておりませんが、明治17年 28歳で没した住職 宗巖の書き残した書によりますと享禄4年(1531年)に辻 善之助が法名 宗順を頂き現在の地に創建したものとあります。また宗巖によって第8世とされた宗寛(安永2年 1773年没)の文書には「寛文丙午年 寺号 木佛御免を蒙る」とありますから、この時から真宗の寺院として認められたかとも思います。この宗寛の在職時 宝暦2年(1752年)大坂堺筋油屋町の紅粉屋茂助により土地と本堂寄進の申し出があり、宝暦3年5月公儀の普請免許を蒙り現在の地に建立されたとの記録があります。昭和20年の空襲による本堂焼亡後、逐時再建を進め 現在の本堂は平成元年に完成したものです。

古くより伝わるもの

- ・寛文丙午年(1660年代)に御免を蒙った阿弥陀如来木佛
- ・元禄7年(1694年)よりの過去帳
- ・前本堂を寄進した紅粉屋一族の墓7基

年間行事

永代経法要…6月上旬の日曜を含む2日間

(これは当寺の門徒三十数名が昭和20年6月7日の空襲で亡くなったのにちなんだもの)

報恩講法要…11月1日、2日



正業寺全景



枝垂梅(二月下旬頃満開)

浄土真宗本願寺派

たまつくりざん じょう きゅう じ

玉造山 浄久寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀佛)

住所 豊中市岡町北2-11-17 〒561-0884
交通 阪急宝塚線岡町駅南西へ500m
電話 06 (6852) 5190 FAX 06 (6846) 4965
住職 森 祐昭

由来・沿革

浄久寺は安満右馬尉が1334(建武元)年に出家し、僧となって了願と号し、紀伊国名草郡和歌浦に一字を建立し、天台宗明光山阿弥陀寺と号したことに始まる。なお、その際、本尊の阿弥陀如来像を後醍醐天皇より寄進されたとの伝がある。五代住職了超が浄土真宗に帰依し、本願寺第10世門主證如上人光教師の直弟となり、1540(天文九)年今の寺号浄久寺に改め、1571(元亀二)年正月、前年に始まった石山合戦の加勢のため、大坂玉造(大阪市天王寺区)に移り、山号も玉造山に改めた。一説には紀州和歌山の性応寺の次男が合戦の加勢のために進出したともある。1726(享保十一)年更に船場(大阪市中心部)に移転したが、それまでも天満(大阪市中北区)に移転していたという伝もある。当時大坂は天下の台所、商都といわれ、とりわけ船場はその中心であった。なお、明和年間の玉造、天満、船場等の宗旨人別帳は焼失、処分を免れ、現在も所蔵している。また、摂津二十四輩にも列せられている。

幕末に本山、西本願寺は倒幕・尊皇派に加勢したが、本願寺第21世門主明如上人光瑞師は明治天皇を擁し、1868(明治元)年大坂行幸を挙行し、その際、天皇を北御堂津村別院に宿泊させ、自らは浄照坊に宿泊した。その前に浄久寺に立ち寄られている。それ以前より歴代門主は浄久寺住職と親交があったようであり、数代門主の書軸等は法宝物として所蔵している。特に本願寺第22世門主鏡如上人光瑞師は浄久寺第15世祐遠と親交を深めていた。光瑞師は、大谷探検隊を編成、派遣して国内外から注目されたが、祐遠は光瑞師に随行し、インド、中国を訪ね、インドより壺を、中国からは青銅器を招来して、これらを所蔵している。

美術界にも浄久寺は関わっていた。1896(明治29)年前大阪で結成された関西美術会発祥は浄久寺であった。1916(大正5)年には大阪洋画会(在阪洋画家の団体)が結成された。7月に第1回展が高島屋で開かれることになったが、鑑査場には浄久寺にあてられた。

今日の大阪の障害児教育の原点もまた浄久寺にあった。1900(明治33)年7月1日、私立盲啞院創立事務所を浄久寺の一部に設置した。同年9月13日浄久寺の本堂を仮教場として、「私立大阪盲啞院」の開院式を挙行した。なお、現在当日をもって大阪市立盲学校、聾学校では創立記念日としている。なお、授業開始から2ヶ月半後の11月30日には南区塩町通(大阪市中心部)にあった某病院の建物を購入して、移転している。

1945(昭和20)年3月13日の大阪大空襲で本尊阿弥陀如来像他わずかの法宝物を除き、堂宇そのほとんどすべてを焼失、灰燼に帰した。その姿に憔悴しきった祐遠は数年親戚寺院、門徒宅を転々としていたが、1950(昭和25)年11月仏縁あって岡町(豊中市)に移転、現在に至っている。



浄久寺近影



明和年間 宗旨人別帳類

曹洞宗(禪宗)

りゅうこうざん しょう せん じ

龍鴻山 正泉寺

宗祖 道元禪師
本山 永平寺(福井県)・總持寺(神奈川県)
本尊 釈迦牟尼仏

住所 豊中市刀根山2-4-13 〒560-0045
交通 阪急宝塚線「豊中駅」下車 北北東へ900m
電話 06 (6852) 3720 FAX 06 (6852) 3720
住職 嶋本 勝行

沿革

文禄年中(1590~1596)伏見桃山に於て松平外記が祖先追善のため創建。

1621年再建、第二次世界大戦で全焼の為
1961年現在地に移築。

主な行事(年中行事)

- ① 3月21日(彼岸中日) 春季彼岸法要
- ② 4月29日(祭) 花まつり会、弁才天遷座祭(天川大弁才天社より)
- ③ 8月23日 盆施食会
- ④ 9月23日(中日) 秋彼岸法要
- ⑤ 12月31日(大晦日) 年越座禅会

その他の活動

- ① 1963年現在地に合気道道場を設立。
現在、(財)合気会合気道豊中正泉寺道場として全日本合気道連盟の理事を拝任。国内外、各地にて指導に従事。
特にオランダに於ては支部を設立(2002年)
- ② 書道教室を1980年に開設(週1回)
毎日書道展審査員阪口大儒先生を請して(各種の書法は勿論うら打ち、てん刻等)
- ③ 他



オランダ支部(正流会)での講習会



正泉寺庭園

真宗大谷派

こうようざん しょう とく じ

光耀山 昭徳寺

宗祖 親鸞聖人
本山 東本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来

住所 豊中市西泉丘2-2419-3 〒561-0862
交通 北大阪急行御堂筋線「緑地公園」
電話 06 (6862) 1465 FAX 06 (6866) 9953
住職 山口 知丈

沿革

元、九州大分の地において禅宗寺院として発祥。先々代昭尊の時、近代教学者曾我量深の常随の弟子として有名な藤代總磨(真宗大谷派伯林寺)に師事、得度。その後昭和7年に大阪十三の地に寺基を構えるも、昭和20年、空襲にて全焼失。昭和31年に再建するも、十三バイパスの建設により、現在の地に移転。昭和40年本堂再々建。昭和58年に同朋会館を建立、現在に至る。又、先代阿仙が、大谷派の開申事件に端を発する教団問題の解決に尽力。国会議員による「同朋会」を設立。現住職知丈は、大谷派擬講。



昭徳寺全景
山門の字は、元宗務総長嶺藤 亮師の書

年中行事

5月最終日曜日…永代経法要
11月第1日曜日…報恩講
毎月1回……………同朋会、五濁会(輪読会)
8月24日……………地藏盆(地域の子供会と共催)
年3回……………親鸞入門講座
12月第1日曜日…帰敬式の実施
12月31日……………除夜の鐘



同朋会館
正面額は元宗務総長、訓覇 信雄師揮毫

日蓮宗

ずいうんざん じゅん しょう じ

瑞雲山 純正寺

宗 祖 日蓮大聖人
本 山 祖山 身延山 久遠寺(山梨県)
本 尊 久遠の本師 釋迦牟尼佛

住所 豊中市服部豊町1-8-1 〒561-0859
交通 阪急服部駅より西北80m
電話 06 (6862) 0665
住職 大岩 泰英 (住職代務者)

住職の所感

元文5年3月1日(1740)、開基止々庵日幸上人は後事を原田法華寺第12世純正院日俊上人に託し示寂。翌、寛保元年3月日幸上人にちなみ「妙見山止々庵」と称し開創される。昭和17年まで「止々庵」の名で親しまれたが、宗教団体法実施により「止々院」に、17世辻本英俊師の代、昭和40年10月新本堂落成を機に瑞雲山「純正寺」と寺号を公称して現在に至る。

さて開創の頃、服部村は皆法華で、数百石の石高ではあったが、村中を南北に能勢街道が走り、人々の往来や物流の中継地として商いが盛んな村で、さらに法華勧請による能勢「妙見信仰」の隆盛期に重なり、「妙見まいり」は大阪や近郷近隣の村々から「講」の一行が能勢街道を通過、村は宿場町の観を呈していたと推考する。街道筋で牛馬車に荷を積み降ろしする人々、背中風の風呂敷を解く姿や結ぶ姿、床几でくつろぐ人々、「服部天神社」に詣で道中の安全を祈る善男善女、草鞋を履き替える姿など、田圃に囲まれた一筋の能勢街道の地点、口による情報の受発信の所こそ服部村であり、その賑わいが浮かぶ。

寺宝の「住吉大明神御神前」と表題された法華経8巻(法華寺第8世智水院日定上人写経)、「服部天神社」に返還した半鐘の請け書、境内に建つ法華経一石一字が納められた妙見出現塚と妙見菩薩尊像、境内に移転して来た石の常夜灯、服部

天神社旧拝殿の屋根瓦にみえる「妙」の字などと伝え聞く伝承を合わせて考えれば、明治の神仏分離令実施に至るまで服部村では「法華寺」、「止々院」と「服部天神社」、「住吉神社」とが法華勧請で結ばれ大いに光彩を放ち、歴史の一刹那を共生していたと考察したい。

神仏分離令の後、服部村の「妙見宮」は「止々庵」に奉安、「妙見講」として篤い村民の妙見信仰に支えられ、終戦の混乱期を経て「純正寺」と公称する現在なお旧村民が中心となり「妙見講」を営み「妙見まいり」が熱心に続けられている。

なお、豊中市立中豊島小学校は明治7年3月1日「止々庵」にて第4小学校を仮設して開校した。



正門より望む



常夜燈

浄土真宗本願寺派

こうげざん じょう こう じ

香華山 常光寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺（京都市）
本尊 阿弥陀如来（南無阿弥陀佛）

住所 豊中市小曾根1-15-33 〒561-0813
交通 阪急宝塚線「服部」下車 東へ1,000m
電話 06（6332）2729 FAX 06（6332）2729
住職 末政 無極

由緒

本寺、元真言宗にして、直入院と称しも、蓮如法主石山行化の時真宗となり常光寺の号を賜る。

本堂に関しては、元禄15年（1702）の再建願があり、梁行三間、桁行四間で瓦葺の堂の建立を計画し、この願書で「仏壇、つの也」とあり、内陣が後方に突き出たかたちになっている。

現在の本堂は江戸末期と考えられる、外陣正面は五間で、内部に柱をたてないひとつ間とし、三方に一間の縁をまわす。内陣と両余間の幅は七間で外陣より広いのが特徴である。

このような平面形をとるものは市内の真宗寺院では他にはない。外陣外回は正面中央三間を双折機唐戸とし、他は半蔀とし、古い古様をのこす。

宝暦九年、本願寺高僧 泰巖、桂巖が当寺にて布教伝道、その後当寺にて往生、境内に墓あり。



本堂



泰巖、桂巖の墓

浄土真宗本願寺派

がりゅうざん じょう とく じ
臥龍山 浄徳寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)

住所 豊中市服部本町5-13-1 〒561-0852
交通 阪急宝塚線「服部駅」下車 徒歩10分
176号線北へバス四中前信号を東へ
電話 06 (6862) 7169 FAX 06 (6862) 7169
住職 常原 康隆

浄徳寺縁起

広島県福山市駅屋町近田 東本願寺派室泉寺に生れた貫嶺(次男)は、大阪府豊中市服部の地に本願寺派浄徳寺として昭和28年創建し(分家として)平成7年阪神淡路大震災で半壊し、平成9年再建今日に至る。

寺院所蔵品

平成17年(2005)12月28日発行

「新修豊中市史」第6巻美術抜刷

5.佐野龍雲筆「南京婦人図」一幅

江戸時代中期

7.「地獄観音救済図」麻着色、一幅

清時代の絵画

その他寺に関係ある佛画、軸等15、6点有り



本堂 御内陣

曹洞宗(禪宗)

いおうざん じょう らく じ
医王山 常楽寺

宗祖 道元禪師
本山 永平寺(福井県)・總持寺(神奈川県)
本尊 薬師瑠璃光如来

住所 豊中市服部寿町2-9-12 〒561-0857
交通 阪急宝塚線服部駅下車西800m
電話 06 (6864) 3012 FAX 06 (6864) 0039
mail hhozumi@topa2.ocn.ne.jp
住職 八田 勝文

常楽寺由来

1200年の昔、役行者紀川熊野山の修行より撰津箕面山へ修行に入る道すがら此地の靈域なるを感じ、薬師如来の御尊像を一刀三禮、刻に奉納されたのを時入尊崇して御堂を建立し此地を薬師堂、氏神薬師と稱して祀り信仰篤くは病んで祈る者癒えずということなしといわれ因に一願薬師とも稱せられた。

此の靈驗顯著な如来を祀れる常楽寺は寛文4年江戸時代前期今より344年前乾嶺壽松大和尚によって堂宇が建立され當時は山門1坪、本堂22坪半、庫裡17坪半、鎮守社等が存した。

明治時代には豊島尋常小学校分校が存し、現在の豊島小学校に至る。昭和7年18世無底心海大和尚によって山門、本堂、庫裡再建立、平成7年1月17日阪神淡路大震災にて本堂大屋根損壊し、寺檀協力のもと木造大屋根銅板葺鉄筋本堂52坪が建立され現在に至る。

寺宝

本尊薬師如来座像
釋迦涅槃大掛軸

法要・行事

3月中旬……大般若会祈祷法要
8月21日……孟蘭盆大施食会法要

住職より

境内地には穂積幼稚園があり、園児達に本堂で月1回おすわり会(座禅)をします。座禅をしたり、お経や法話を聞いて、仏教に親しみを感じることも幼児期の情操教育に大切な事と思います。子どもたちの明るい元気な声がいつも聞こえ、地域の皆さんにも親しまれるお寺です。



本堂内陣



本堂全景

浄土真宗本願寺派

ぎょううんざん

しん

かく

じ

暁雲山 真覚寺

宗祖 親鸞聖人

本山 西本願寺(京都市)

本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀佛)

住所 大阪府豊中市上新田2-1-3 〒560-0085

交通 千里中央駅徒歩10分 桃山台駅徒歩13分

電話 06 (6871) 0450 FAX 06 (6871) 0450

住職 田邊 覚子

沿革

徳川幕府治世下、元和2年に幕府直轄の天領とされたこの千里の地に於いて寛永7年惣道場として開基、爾来、385年有余継承され現在に至る。

再建

現在の本堂は平成3年にご門徒の多大な尽力により再建されたもの

由来

蓮如上人安座石

吉崎御坊焼失の後、明応年間、大坂法安寺南の坊に住せられた折、同所生國魂神社常々社参され、この石にお腰をかけられ行き通う有縁の人々に説かれた法縁の由緒により法安寺の庭内に保存し、上人安座石として永く御遺徳を仰いでおられたが、明治4年神仏混淆の廃止により時の神官松下従五位より、その地の區長に贈与あり、その後、大正2年10月25日、篤信者中埜廣太郎元代議士の熱願により、上人御巡化道中の地として伝えらる暁雲山真覚寺の境内に安遷された。



山門



蓮如上人安座石

浄土真宗本願寺派

おおつかざん しん ぎょう じ

大塚山 信行寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀佛)

住所 豊中市立花町2-3-31 〒560-0025
交通 阪急宝塚線「岡町」西へ400m
電話 06 (6841) 3100 FAX 06 (6843) 2936
住職 岩田 仁勝

由緒

天正元年(1573年)3月茂幾吉右衛門の弟が本願財第11代顕如上人の直弟子となり剃髪して法名を慈愍と賜り現在の位置に一字を創建する。

本堂再建

弘化4年(1848年)2月、住職永学のとき本堂再建の機運高まり、村の肝いり権右衛門発起人となり寄進を募り、上棟するも募財進まず、苦労しながら村人一致協力して元治元年(1864年)6月本堂が完成した。募財は100両2朱2分青銅519貫文、その他米、酒、労力など村人あげての事業であった。時に門徒戸数10数戸45人である

時代の背景

時はまさに徳川時代の末期で、6月5日京都では新選組の池田屋襲撃事件で長州藩士20名が殺害され、これが禁門の変、蛤御門の変となる。更に4年後には鳥羽伏見の戦に発展し、敗れた幕府は賊軍となり、徳川時代は終わると云う世相であったが、村人には関係なく朝日に高く輝く、寺の大屋根を見て安らぎと信仰を深め、報恩講、永代経、布教大会の他いろいろな教養や集会の場所として信仰と文化の中心となった。特に村役(中西)権右衛門の弟、克明(かつあき)は蘭学を学び寺子屋を開き村の子弟を教えたと伝えられ明治7年(1874年)信行寺を仮校舎として大阪府豊中村第6番小学校(現在の克明小学校)が創立された。

本堂修葺事業

昭和9年(1934年)の室戸台風、太平洋戦争の爆弾の破片による瓦の損傷、平成7年(1995年)の阪神大震災では倒壊は免れたが、損傷は日に日に進む。平成14年(2002年)大屋根修復を決議、募財を開始、住職門信徒の願いが結集し、平成19年(2007年)10月落慶に至る。



本堂



本堂南側より

日蓮宗

によせつざん しん ぶく じ

如説山 新福寺

宗祖 日蓮聖人
本山 久遠寺(山梨県)
本尊 久遠の本師釋迦牟尼佛

住所 豊中市二葉町2-2-23 〒561-0825
交通 阪急電車神戸線神崎川駅より徒歩15分
電話 06 (6331) 1094 FAX 06 (6331) 1094
住職 水谷 進護(第38世)

由緒沿革

摂州豊嶋郡棕橋庄本嶋村、新福寺は奈良時代の僧、行基の創建である。二丁四方の境内地を有し壮大な伽藍がそびえていたが、保元平治の乱(1156~59)に焼失し、その後約500年間廃寺となり、慶安2年(1649)古跡新福寺は、京都白川心性寺心性院日悟上人の御弟子亘應院日芳上人によって現在地に再建された。

行基創建のときは現在の場所ではなく、今の庄本町1、2丁目(小字新福寺)付近にあり、その南東に「堂の前」という小字がある。当新福寺の「堂の前」と思われ、二丁四方の境内地という記録と一致するわけである。

当山の再建に当たり日悟上人は師匠蓮花院日教上人(武州忍之内、蓮華寺)より授与された日像上人(宗祖日蓮大聖人の孫弟子)感得の自然石鬼子母神を、日芳上人にお譲りになり、当山の鎮守として奉安されたのである。

当地はもと、棕橋の荘と呼ばれ徳川旗本1万8千石、大嶋雲八光義公の旧領で、日芳上人はときの領主第4代大嶋義近公に大嶋家代々の位牌所とすることを願い出で、これに小湊誕生寺の日遵上人の力ぞえもあり、承応2年(1653)2月26日、寺地として義近公より免許状を与えられた。

このように日芳上人によって、行基創建の由緒ある当山が日蓮宗の寺として再建されたことは、日像聖人感得の鬼子母神の靈験であると、当山縁起には

結んである。さらには、行基創建以来(ただし、創建の年は不明であるゆえ、行基寂年より起算)1250余年を経過、現在地に再建以来350余年を数え、その間37代の先師の法華経伝道の信念と、檀徒の熱烈なる題目信仰のもとに当山は発展したのである。



新福寺山門



本堂並びに「忠臣蔵」で有名な萱野三平とその一族の墓碑

真言宗

ゆがさん ずい しょう いん
瑜伽山 瑞祥院

宗祖 弘法大師
本山 単立寺院(高野山系)
本尊 不動明王 祭神 天津彦彦火瓊杵尊

住所 豊中市新千里南町2-17-3 〒560-0084
交通 北大阪急行「桃山台」駅から徒歩20分、
阪急バス追手門幼稚園前下車西へ50m
電話 06 (6872) 0588 FAX 06 (6872) 2733
URL <http://www6.ocn.ne.jp/~zuishoin/>
mail zuishoin@lime.ocn.ne.jp
住職 中川 慈永

縁起・伝承

瑞祥院は単立の真言宗寺院です。昭和四十六年四月に現住職「慈永和尚」の発願により建立いたしました。昭和五十六年四月に宗教法人の許認可を得ております。現在庫裏とお堂が一体の庫裏御堂の形です。あるとき住職が禪定をしていると、一人の神が前にたたれお話をされました。「千里の地には多くの池や木々があったが開発により潰されていった、そこを住处とするさまざまな精霊の行き場所がなくなり困っている。汝の仏道修行を守護いたすによって鎮まる場を造られよ」とのお話でした。その言葉を受入れられた住職は千里の地に新寺を建立したのです。

年中行事

正月三ヶ日修正会(新年祈祷)

……………午後一時より修法

二月三日節分会星祭(厄除祈祷)

……………午後一時より修法

三月彼岸施餓鬼法要……………午後七時より修法

八月盆施餓鬼法要……………午後七時より修法

九月彼岸施餓鬼法要……………午後七時より修法

十一月大掃除(下座行)……………午前九時より

十二月仏器磨き(下座行)……………午前九時より

住職のひと言

ご先祖様やご神仏を拝むのが大好きなため、そんな話を聞きに檀家さんだけでなく、信徒さんのお参りもあります。ご縁のある方が信仰のある生活をして幸せを感じるようになっていただけたらと念じております。



庫裏御堂



護摩修法

黄檗宗(禅宗)

せっぽうざん ずい りん じ

雪峰山 瑞輪寺

宗 祖 隠元隆琦
本 山 萬福寺（宇治市）
本 尊 薬師瑠璃光如来

住所 豊中市中桜塚2-2-24 〒561-0881
交通 阪急宝塚線「岡町駅」
電話 06（6857）5192 FAX 06（6857）5193
住職 阪田 浩章

由 緒

もとは桜墳山善光寺と称し、真言宗にして原田神社の宮寺で大伽藍を連ねる壮観な大寺院でした。天正年間、織田信長と伊丹城主荒木村重の兵火にかかり焼失、本尊・薬師如来と四天王がまぬがれる。元禄年間、千呆禅師により再興され禅宗・黄檗宗になり現在にいたる。明治年間に大修理をなし、昭和40年に近代的な建造物になりました。

主な仏像

- ・薬師如来・持国天・多聞天
（共に平安時代後期の作。豊中市重要文化財）
- ・日光菩薩 ・月光菩薩 ・十二神将・韋駄天像

境内史蹟

「一休禅師の子紹偵和尚の墓」

紹偵は一休の子として此の地に生まれ堺の南宗寺に集雲庵を建て禅の師として活躍しこの寺で死去。

「俳人西吟の塔」

西吟は談林派の俳諧師として活躍し、井原西鶴の「好色一代男」の序文を書いて有名、岡町の落月庵に住み原田神社へも俳諧を奉納している。

法要・行事

盆施餓鬼法要、扇塚供養

春秋書芸院書道教室

住職のひと言

黄檗宗は禅宗の一派ですが、江戸時代に中国の明(みん)より日本に渡って来られた隠元禅師によって開られた宗派です。四代將軍徳川家綱公より京都府宇治市に黄檗山萬福寺を創建していただきました。煎茶(せんちゃ)・普茶料理・明朝体活字・黄檗の書画等々、日本の文化に与えた影響は大きい。



本尊



山門

真宗大谷派

げんこうざん せい がん じ

原岡山 誓願寺

宗 祖 親鸞聖人
本 山 東本願寺(京都市)
本 尊 阿弥陀如来

住所 豊中市原田元町2-4-8 〒561-0808
交通 阪急宝塚線「曽根」駅下車西へ徒歩8分
電話 06 (6857) 3000 FAX 06 (6857) 3364
住職 渡邊 智行

縁起・沿革

文亀元年(1501)原田村、渡邊八左衛門の長男 治郎左衛門(釋教覺)、当家の費を以って、今の地所に創建。

江戸時代、当山に於いて、和裁習得中の土肥某女(現在土肥安弘氏)が徳川六代将軍家宣公の乳母として、江戸城に召された。(現在当山には、亡家宣公の位牌及び長刀3本を安置)その縁により、当山並びに渡邊家、土肥家は徳川葵(三ツ葉葵)の紋の使用を許可される。

主な仏像と建造物など

本 尊 阿弥陀如来像及び御内仏像
(両像共 東本願寺より下付)

本 堂 七間四方 文亀元年(1501)
開基釋教覺により一建立。以後、数度檀家の募縁により、修復し今日に至る。

梵鐘堂 壱間半四方 宝暦4年(1754)9世釋秀慧の代、檀家の募縁により新築。

親鸞聖人御絵伝 掛軸4本(東本願寺より下付)
元禄2年(1689)

法要・行事・活動など

定例法要

修 正 会 元旦11時

永代経法要 5月中旬の2日間

初日 14時19時 2日目 14時

報恩講法要 11月中旬の2日間

初日 14時19時 2日目 14時

主 な 活 動 「原田誓願寺友の会」において、
月1回の講習会、年1回のバス研修

住職のひと言

平成7年(1995)1月17日、阪神淡路大震災により、本堂が半壊いたしました。しかし、門信徒の多大なる募縁により、修復を終え、平成8年(1996)4月6日、無事落慶法要を厳修することができました。この厚情を大切に、門信徒と共に、念仏相続してゆきたいと思います。



本堂全景



本尊とお荘厳

浄土真宗本願寺派

むりようざん せん きょう じ

無量山 専敬寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀佛)

住所 豊中市山ノ上町12-9 〒561-0892
交通 阪急宝塚線「岡町」下車西へ600m
電話 06 (6852) 0447 FAX 06 (6845) 0030
住職 山上 隆治

由緒

山ノ上村住人俗名山上甚右衛門は蓮如上人(1415～1499)に帰依し法名を祐玄と号し、明応9年(1500年)9月1日一字を創建。西本願寺の末寺として阿弥陀仏を本尊としている。

それ以後、本堂庫裡の改修は度々行われたようであるが詳細は不明である。現在の庫裡は昭和44年本堂は昭和52年に建立されている。

皆様に見ていただくような寺宝、仏像、有名人の墓地等何ありません。



本堂



山門

浄土真宗本願寺派

いっしんざん せん しゅう じ

一心山 専宗寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)

住所 豊中市熊野町2-4-2 〒560-0014
電話 06 (6854) 0174 FAX 06 (6854) 0174
住職 小寺 正顕

沿革

開基・等照。創立は文禄3年頃。享保元年の火災により記録が焼失し詳細不明である。

中興開山・忠淵、当村の住民である俗姓・小寺八兵衛が寛文元年、等照の道場地に当寺を再興して一村の惣道場となし、専宗寺となる。

元来、西本願寺の末寺なれども、村内に大派の門徒も多き為め、宣如上人の画像(裏書に曰く寛文13年仲春25日摂州手島郡熊野田専宗寺常付物也)を申し受けて、本堂に安置する等、あたかも両本山兼末寺院の観であった。

その後、2度の火災にあい、詳細不明である。現在の本堂は昭和54年建立で4度目の建物である。



本堂

住職のひと言

如来様よりいただいたご縁、浄土真宗の教え「他力本願」、お念仏の教えを皆様とご一緒に聞法させていただく場として、努力していきたいと思っております。



本尊 阿弥陀如来立像

浄土真宗本願寺派

せいりゅうざん ぜん とく じ

清龍山 善徳寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀佛)

住所 豊中市庄内東町3-12-20 〒561-0831
交通 阪急宝塚線庄内駅下車 北東へ100m
電話 06 (6331) 3745 FAX 06 (6334) 5427
住職 好井 正良

沿革

文明7年、荒川祐三郎が蓮如上人に帰依して、祐願と名乗り、善徳寺を建立する。現住職で18代を数えるが、記録によれば、過去3回、天竺川の決壊により、堂宇をことごとく流失したため、記録はほとんど残っていない。

本堂は、150年前の流失後再建、今日まで続いたが、平成7年の阪神淡路大震災により全壊し平成11年に再建した。



本堂

戦渦の跡

旧本堂の柱や縁板には、先の大戦で空襲に遭い、その際、庫裏を直撃した爆弾の破片の跡が残っており、今回の再建に際しては、それらを出来るだけ残して、戦渦を後世に伝えることにした。

伝道

伝道・法座は、毎月のだれいほざ・元旦会・永代経・盆会・報恩講・毎月の歎異抄講座・除夜会などであり、毎月「みどーさん」(津村別院発行伝道誌)・寺報「和光」を全門徒に配布している。



空襲の際、庫裏を直撃した爆弾の破片の跡

浄土真宗本願寺派

ぶっしょうざん

ちょう

じゅ

じ

仏性山 長寿寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀佛)

住所 豊中市螢池中町2-7-10 〒560-0033
交通 阪急電車宝塚線螢池駅下車
電話 06 (6852) 4341 FAX 06 (6853) 3797
URL <http://homepage2.nifty.com/choujuji/>
住職 渡邊 篤

沿革

寛永の頃辻本武兵衛なる者が当地の現在箕輪にある如来寺5世渡辺行念の弟子になり(法名専念)領主青木氏の許可を得て草庵を設けていたが後継者がなく80年程で絶えた。それを如来寺6世の渡辺念誓の兄恵三が領主に願い出て正徳5年に現在地に移転再興したという。如来寺は当初は麻田地区にあったらしいが同寺の古記録にもどの辺りにあったのか判明しないが恐らくこの辺りにあったのかも知れない。

恵三はその後寂如宗主の直弟子となり文政10年に堂宇を建立した。恵三とその子恵南の墓は長寿寺中興として如来寺の本堂の裏に最近まであったが同寺が近年境内地改修に当って境内の別地に移転をした。長寿寺としては恵三、恵南両師のことを思い又当時の如来寺9世念貞、10世念学両師の御好意を思い長寿寺境内への移転を差控えた。当時8世恵正の時代は本山に於ては広如宗主の天保の財政改革が始まり、大根屋石田敬起が宗主の依頼を受けて、法中、所化は広く協力を呼びかけたが長寿寺も本堂の改築と合して、この事業に参画かなりの協賛をした模様で広如宗主より度々御消息を賜わり本堂落慶後には御巡教を頂き「弘誓深如海」の軸と庵号を賜っている。

昭和の御巡教を頂いた折も現在の本堂を改築した時であったことは不思議な御縁であったと思う。

境内

庫裡改築時に境内に植えた「枝垂れ桜」が成長して時期には附近の人々から喜ばれている
螢池小学校が現在地に移るまでは、長寿寺の南東現在の農協の附近にあった様で、児童数が増えて手狭になった暫くの間、長寿寺の一部を臨時に寺小屋風に使用したようで明治中頃生れの老人が懐しんで話していたことがあった。当時10世覺了が同校の9代目の校長をしていたことも関係があるのかも知れない



本堂



山門より本堂を臨む

曹洞宗(禪宗)

ほうじゅざん じ ぞう いん

寶珠山 地藏院

宗祖 道元禪師
本山 永平寺(福井県)・總持寺(神奈川県)
本尊 地藏菩薩

住所 豊中市桜の町4-8-8 〒560-0054
交通 阪急バス「柴原」下車東へ徒歩5分
電話 06 (6843) 6868 FAX 06 (6843) 6869
住職 原田 隆文

縁起・沿革

当寺は、天正元年(1573年)に、大廣寺8代明仙和尚の弟子大圓和尚によって創建されました。その後、時代の変遷に伴って一時期衰微しましたが、文久3年(1863年)正宗和尚によって再建されました。

太陽の光が降り注ぐ明るい境内に立つ現在の本堂は、昭和45年に檀信徒の皆様のご協力により再建され、現在に至っています。

子安地藏尊

山門を入って左側には、子安地藏尊(享保14年に建立)がまつられています。昔から目の地藏様ともいわれています。

青面金剛碑

江戸時代の中頃、享保7年(1722年)に建立された青面金剛碑が、本堂正面の東にまつられています。「青面金剛」は一般的に「庚申さま」として知られています。庚申さまの御利益は、長寿だけでなく、豊作、招福、厄除け、和合、良縁、健康と幅広く、色々な信仰が残っています。

年中行事

- 3月……………春彼岸法要
大般若祈祷法要
8月19日………孟蘭盆会施食会法要
8月24日………地藏盆(お地藏様をおまつりして、皆様で御詠歌をお唱えします。)
9月……………秋彼岸法要



昭和45年落慶の現本堂



青面金剛碑
享保7年(1722年)建立

曹洞宗(禪宗)

きっしょうりん　とう　こう　いん　はぎ　の　てら

吉祥林 東光院萩の寺

宗祖 道元禪師 瑩山禪師
本山 永平寺(福井県)・總持寺(神奈川県)
本尊 薬師如来 こより十一面観音

住所 豊中市南桜塚1-12-7 〒561-0882
交通 阪急宝塚線曾根駅下車北へ300m
電話 06 (6852) 3002
FAX 06 (6843) 3876
H P <http://www.haginotera.or.jp>
住職 村山廣甫

萩の寺略縁起

当院は新西国三十三ヶ所観世音第十二番・西国七福神第一番の霊場にして、天平年間(735年)行基菩薩の草創にかかり本尊は同菩薩自作の薬師如来とこより十一面観世音ならびに、重文(旧国宝)降魔座釋尊を安置す。

孝徳天皇の御宇、豊崎村下三番(現大阪市北区中津)にて行基菩薩火葬の方法を伝授したる際、死者の霊を慰めるため、一体の薬師如来を彫像し、当時淀川水系に群生する萩を供花としてその霊前に捧ぐ。当院の萩、植栽の起縁なり。

延宝9年、相州功雲寺、霊全和尚来住し、初めて曹洞宗籍に入り、仏日山吉祥林東光院と称す。別格地寺院なり。文化年間、弥天一州禪師、当時大坂十人両替の殿村平右衛門(米平)中原庄兵衛(鴻庄)両開基と協力、伽藍を再興して今日に至る。

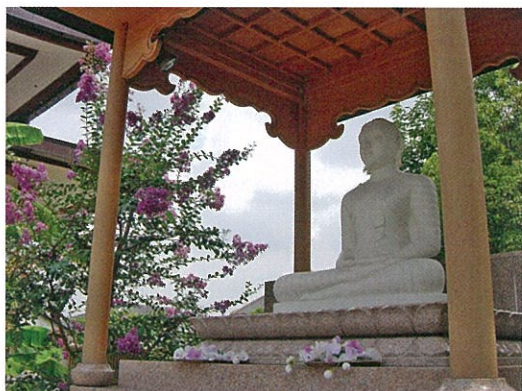
境内には、相州小田原道了大権現を勧請し、また隠岐国あごなし地藏尊を遷座し、阪急沿線西国七福神毘沙門天王を安置す。前庭後園萩多きを以って通称萩の寺と呼び花時雅客の杖を曳くもの

多し。大阪みどりの百選に選ばれし境内には正岡子規はじめ7つの句碑が建つ。

尚、昭和50年には淀君ゆかりの「萩の筆」を復興し、また同63年当山授戒会を記念してスリランカ国より「アヌラダプラ仏舍利」が贈られ、六百年ぶりに「こより観音写経大衣」を新調、さらに平成10年より本格的な大阪初の「虚子句碑」や星岡茶寮ゆかりの「魯山人観音」像を開披、本平成19年は阪急電鉄創立100周年を記念して、小林一三翁ゆかりの「西国七福神宝船」石像を建碑するなど話題多し。

年中行事

元旦～15日……毘沙門天初詣
2月3日……節分星まつり
5月3日～5日……三十三観音まつりお砂踏み巡拝
7月第2日曜日……孟蘭盆大せがき法要
8月23日～24日……あごなし地藏延命祭
9月中旬～下旬…世界の恒久平和と人と自然との共生を祈る祭典萩まつり道了祭
道了大権現採灯大護摩供養
12月第2土曜日……大般若転読祈祷会



吉祥林永代塔(萩の寺永代納骨供養墓一釈迦如来白仏像／大本山永平寺大禪師況下ご開眼)



室町時代より続く金峯山寺道了講による採灯の大護摩供(毎年9月23日秋分の日)

法華宗(本門流)

とうじょうざん とう せい じ

東城山 藤井寺

宗祖 日蓮聖人
本山 大本山本興寺(尼崎市)
本尊 本門八品上行所伝の南無妙法蓮華經

住所 豊中市城山町2-2-23 〒561-0803
電話 06 (6862) 3734
住職 松井 正孝

沿革

享保11年(1726)、現在の大阪市北区曾根崎に、法華宗大本山本興寺第33世、日軌聖人の開基により創建。昭和4年に現在地に移転。現住職は25世。

縁起

創建当時の曾根崎には、長池という池があった。その池には、龍が棲んでいると恐れられていた。近くに住む長者の藤井栄斉は、この龍を退治し、村人に大変感謝された。しかし、栄斉は急死してしまう。村人は「龍の祟り」ではないかと恐れた。そこで、栄斉共々龍を供養するために庵を建立。のちに寺地の寄付を受けて一寺院として創建された。

現在の露天神(お初天神)の東隣りであったが、都市化により、静寂な地を求めて現在地に移転した。

当時の詳しい記録は、大火によって焼失しているが、創建縁起の「龍」は、その頭骨が現在も格護されている。(非公開)



宗祖日蓮聖人辻説法御姿



山門

真宗大谷派

とうえんざん

とく

よう

じ

東圓山 徳用寺

宗祖 親鸞聖人
本山 東本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来

住所 豊中市服部寿町3-1-5 〒561-0857
交通 阪急宝塚線服部駅下車 西へ700m
電話 06 (6863) 4200 FAX 06 (6863) 4200
住職 藤政 順三

縁起

開基は室町時代、延徳元年(1489年)。蓮如上人が北陸方面を布教行脚の折、当時武士であった藤井政重氏が上人と出会い真宗に帰依することとなる。

そのまま蓮如上人の徒弟となり、布教のお供をするなか、現在の地に於いて寺を創立する。法名を教順、寺号は徳用寺と名乗り現在に至る。現住職は19世である。

寺宝

蓮如上人直筆「六字名号」

仏像

阿弥陀如来像(室町時代作)

年中行事

報恩講法要、永代経法要、春・秋彼岸会、修正会、
同朋会、聞法会
毎月掲示板に法語と説明文



全景

浄土宗

じょうこうざん とく りん いん

常光山 徳林院

宗祖 法然上人
本山 知恩院(京都市)
本尊 阿弥陀如来

住所 豊中市上新田2-4-14 〒560-0085
電話 06 (6831) 9329
住職 佐々木 隆晶

縁起

もともとは、京都市東山区の総本山知恩院の膝下にあったが、大正3年(1914)に村の有力者により、現在地に移転する。徳林院が移転する以前には、当地には常光庵があった。常光庵は延宝元年(1673)に小畠与右衛門の娘、清順が初めて庵地を開いたことにより成る。

元禄5年(1692)石川主殿頭により常光庵の号を受ける。

徳林院の入り口には、天保の年号の入った碑があり、そこに「徳本行者の遺跡」と刻まれている。徳本行者は江戸時代中期の浄土宗僧で、畿内や関東で教化し庶民から生き仏様と敬われた。当地にも、在住し、村人に優しく接し、教えを受ける行者は村人に慕われていた。当院には、行者の御尊像、六字名号碑利剣の名号の掛け軸、身につけておられた袈裟などがある。

定例法要

盆施餓鬼法要

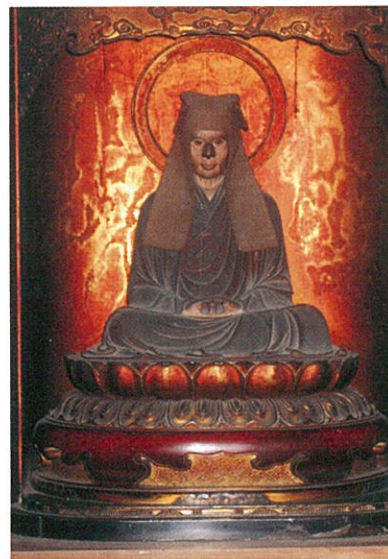
活動など

千里ニュータウンの真ん中に位置し、散歩にこられたり、様々な相談の依頼がある。

お寺の境内地全体が豊中市の保護林指定を受けていて、緑地の保全につとめている。



本堂 正面



徳本上人像

曹洞宗(禪宗)

こうみょうざん なん しょう じ

光明山 南昌寺

宗 祖 道元禪師
本 山 永平寺(福井県)・總持寺(神奈川県)
本 尊 聖觀世音菩薩

住所 豊中市庄内東町3-5-11 〒561-0831
交通 阪急宝塚線庄内駅下車北へ徒歩5分
電話 06 (6332) 1575 FAX 06 (6332) 1617
住職 本莊 廣司

創建・沿革

江戸時代初期の「庄内地区」は幕府の直轄地＝天領でした。この地を治めた幕臣生島氏(代官という職制)の菩提寺として正和2年(1645年)に創建されたのが南昌寺です。以来、庄内野田地区の寺として地元を支えられ今日に至っています。370年の歴史があり、現在の住職で21代目になります。

年中行事

3月21日…(彼岸の中日) 春彼岸法要

5月10日…大般若会祈祷法要

明治41年(1908年)17代住職見珠覚聞(けんじゅかくもん)和尚の代から伝えられる寺宝大般若経600巻を12名の僧侶が転読する、大変ありがたい祈祷の法要です。

8月18日…盂蘭盆会施食法要 先祖供養



本堂全景



百八体地藏尊と永代納骨堂

境内地・建物

南昌寺は昔は「宮寺」でした。神仏習合で住職は以前は裏にありました「八幡神社」の別当も兼ねていたのです。その名残りとして本堂前に樹齢200年の夫婦(めおと)の楠があります。(豊中市保護樹50号・51号)

・永代納骨堂

少子高齢化の結果として墓地を守れない、墓地は必要ないという人がふえています。宗旨不問で、庄内地区の多くの方々のお骨の納め場所として2004年に建立。

・百八体地藏尊

昔はムラの辻や入口にあった「お地藏さん」がどんどんなくなってきています。地域で守ってきた地藏信仰を寺として守りたいと考え、2004年に108体の地藏を集めてみました。宗旨不問です。

住職の一言

寺は本来、広く檀信徒、地域に開かれたものであるべきです。南昌寺では月1回の御詠歌、年数回の写経会、年1回の本山への親睦旅行などを行っています。釋尊の弟子である僧侶は「大乘」＝在家の信者さまと共に歩く仏教徒であるべきものです。僧侶は修行によって出発をし、仏教徒の方々の励ましにより成長するのです。伝統教団の教えに誇りをもち仏道のすばらしさを伝える伝道師でありたいと考えています。

浄土宗

せつしゅざん

ねん

ぶつ

じ

摂取山 念佛寺

宗祖 法然上人
本山 知恩院(京都市)
本尊 阿弥陀如来

住所 豊中市長興寺北2-8-6 〒561-0875
交通 阪急宝塚線曾根駅下車北東へ900m
電話 06 (6854) 6526 FAX 06 (6854) 6526
住職 岩瀬 友泰

由緒

念佛寺は字廣畑にあり。山号を摂取山と称し、浄土宗大本山黒谷金戒光明寺末寺にて阿弥陀如来を御本尊とす。

中興開山は寛文2年(1662)片山帝釈寺本蓮社良覚上人、以来尼僧の住すること16代に及び、明治6年5月廃寺を仰せ付けられ柴原安楽寺へ合併となる。

明治13年3月24日復興し、引き続き5代の尼僧ののち初めての男僧が現住職である。

年中行事

3月(春彼岸)・9月(秋彼岸)の彼岸法要。

8月の盆施餓鬼法要。

11月終りから12月初にかけての吉日十夜法要(十日十夜別時念佛会)が大きな行事です。



本尊 阿弥陀如来座像



本堂 正面

曹洞宗(禪宗)

ぎょくほうざん ばい りん じ

玉寶山 梅林寺

宗 祖 道元禪師
本 山 永平寺(福井県)・總持寺(神奈川県)
本 尊 聖觀世音菩薩

住所 豊中市刀根山元町5-11 〒560-0044
交通 大阪モノレール「柴原」駅下車南に3分
電話 06 (6852) 6432
住職 木下 大朗

縁 起

戦国の世の末期、近代築城の名将として聞こえた伊丹城主、荒木村重の正室たしの厚い帰依により、文亀2年(1521年)に梅林庵として創建。その後、徳川末期、経済の最も繁栄した化政時代の文政12年(1829年)に完成寛明和尚を開山として曹洞宗の寺院となりました。

幽霊代官の伝説

現在、梅林寺の墓所の一角に眠っている速水治左衛門について、次のような伝説が語り継がれています。

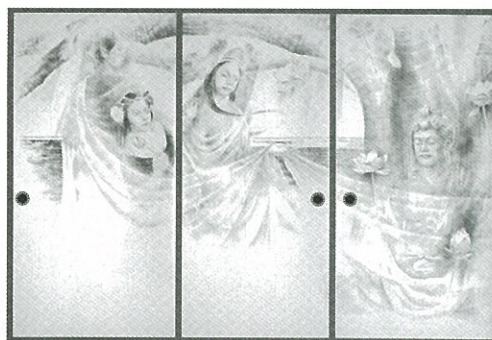
江戸時代、幕府直轄の天領だった桜井谷地域を治っていた代官、速水治左衛門が勤めを終え帰宅したとき、隣の下男が門前で割った薪の切れ端が胸元をかすめました。立腹した代官は、手打ちにするために下男を引き渡しを迫りましたが、主人の計らいで何とか無事に逃げ出すことができました。その後、修行者になったその下男が全国を旅して回る途中北陸、立山の麓にさしかかったところ、幽霊が現れ、「自分は代官の霊だが、あの時はすまなかった。怒りにまかせお前を手打ちにしようとしたが、そのため私はいまだに成仏できず、霊としてさまよっている。どうか国に帰ったら、墓所のある梅林寺に行って供養してほしい。」と言うと消えてしまいました。そこで、桜井谷の地に戻った修行者は、霊を弔うため、梅林寺で盛大に供養し、さらに現在柴原霊園にある大地蔵菩薩像を建立したと伝えられています。

住職のひと言

阪神淡路大震災で150年を越える歴史のあった本堂が損壊しました。幸い檀信徒の皆さんの厚い帰依により、平成14年、美しい入母屋の屋根をいただく新しい本堂が完成しました。大学・大学院でイタリア文学を専攻し、大学などでイタリア語を教える傍らでお寺を手伝っていた私ですが(大学院在学中に休学し、1年間ではありますが修行には出ていました)、これを機に、師であり父である良裕和尚から住職の任を受け継ぎました。回り道をしましたが、これも仏様から頂戴したご縁でしょう。禅僧として日々を精いっぱい生きることを目標に、梅林寺を守っていきたいと思っています。



山門と本堂(正面)



本堂客間の襖絵「降魔成道」(篠原貴之作)の一部

高野山真言宗

あんらくざん ふ どう いん
安楽山 不動院

宗祖 弘法大師
本山 金剛峯寺(和歌山県)
本尊 不動明王(脇仏-十一面観音、大黒天)

住所 豊中市服部本町1-8-21 〒561-0852
交通 阪急宝塚線服部駅下車徒歩5分
電話 06 (6863) 2120 FAX 06 (6865) 2511
H P www.tcct.zaq.ne.jp/fudouin/
Mail fudouin@tcct.zaq.ne.jp
住職 田中 智照

縁起・沿革

大正時代末期、初代住職貞照尼が修行を重ね、教会を設立。その後、時の高野山真言宗管長・金山穆韶猊下の推挙により新寺建立。創建当時は豊中市北条の地にあったが、第二次世界大戦中、近隣住民の避難場所として大阪府に接収を余儀なくされ、代替地として現在地に移転。

主な仏像

一本の「一位の木」に不動明王、大黒天、十一面観音が彫られ、三方から拝することができる珍しい仏像。また、仏師松久朋琳作の極彩色の大如来も祀る。

本堂

阪神淡路大震災で被害を受けるが、篤信の檀信徒の熱意ある協力により再建。平成11年5月落慶法要厳修。

年中行事

「お不動さん」「お大師さん」と親しまれ、毎月十八日の所願成就の護摩の日には多数の参詣者で賑わう。また年中行事として新年の午前零時より護摩を焚き檀信徒の一年の家内安全・無病息災を祈願する。参道に並べられた百八本のロウソクの灯の中、家族連れが初詣に訪れる。

二月三日の節分の豆まき、六月十五日の宗祖弘法大師の誕生会、八月二十四日の地蔵盆。春秋の彼岸・盆の施餓鬼供養も賑わう。



山門から本堂を臨む



本尊

浄土真宗本願寺派

とうけいざん ほう うん じ
当恵山 法雲寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀佛)

住所 豊中市本町3-10-5 〒560-0021
交通 阪急宝塚線「豊中駅」下車
北出口より北東へ徒歩7分
電話 06 (6852) 1019
URL <http://www.tcct.zaq.ne.jp/bpdhn205/>
住職 辻本 純孝

歴史

慶長18年(1613年)、辻本又右エ門により開基。現在は、11代目住職 辻本純孝。

諸行事

1月8日…定例法座&門徒新年互礼会
2月8日…定例法座&ミニ講習
3月8日…定例法座&ミニ講習
4月8日…定例法座&ミニ講習
5月 ……永代経法要
6月8日…定例法座&ミニ講習
7月8日…定例法座&ミニ講習
8月8日…定例法座&ミニ講習
9月8日…定例法座&ミニ講習
10月8日…定例法座&ミニ講習
11月 ……報恩講法要
12月 ……定例法座&ミニ講習

他行事(全無料)

バスケットボールトーナメント(春夏秋年3回、スポーツ公園にて)、フリーマーケット(春秋年2回、スタンプラリー、ジャンケンゲーム同時開催、スポーツ公園にて)、落語トーナメントR-1(年1回)、法雲寺アート作品展示会(不定期)、法雲寺門徒限定お気軽お見合いクラブ、定例法座出席者限定ミニバスツアー(日帰り仏教遺跡めぐり、年1回)

その他活動

毎月1回寺報「ともしび」発行、
「法雲寺スポーツ公園(寺院北側)」年中無料開放
(午前9時～午後6時まで、大学生以上は午後3時～、
駐車不可)

お寺より一言

開かれた宗門を目指してがんばってます。誰でも来やすいお寺にしたいです。
お気軽に遊びに来てください。



本堂



法雲寺スポーツ公園

浄土真宗本願寺派

かんろざん ほう おん じ

甘露山 報恩寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀佛)

住所 豊中市春日町2-6-1 〒560-0052
交通 阪急バス宮山停
電話 06 (6852) 1243 FAX 06 (6852) 1245
住職 櫻井 義超

歴史

寺伝によると、当寺の始まりは遠く天平年間にさかのぼります。僧行基(749没)は俗に金寺千坊といわれるほど数多くの寺院を建立しましたが、その一つ金銭寺(金泉寺)が当寺の前身に当たります。その後幾多の変遷を経て、南北朝時代に本願寺の存覚上人が当地に行化された際、金銭寺(真言宗)は多くの村人とともに浄土真宗に改宗し、念仏の道場として再出発しました。

その後、楠正成の子孫正綏(まさやす)が出家し住職となって法灯を継ぎました。天正6年(1578)織田信長の手によって焼かれましたが、この法難を逆縁として念仏の声はますます高まったといいます。

文禄3年(1594)正綏の孫正秀は、石山本願寺(現大阪城の地)の法難にあたり、信徒とともに戦地に赴き、織田信長に抵抗して本願寺を譲った功績により寺地を与えられ、ここに小堂を建て「報恩寺」と改めました。

正徳元年(1711)焼失、同4年了専が再建。

本願寺歴代門主ご下向の寺として、年を追って増える参詣者を収容しきれず、明治14年当時の住職櫻井義門が規模拡大した現在の本堂・鐘楼・山門・門長屋・書院・庫裏を建立しました。昭和63年に本堂の大修復を実施。

庫裏は阪神淡路大震災によって大破したため、豊中市の文化財に指定されている大玄関と書院を残して平成9年に改築されました。

大玄関(文化財)・書院

明治の本堂再建のときに、当寺の庫裏・書院として麻田藩(初代青木一重)の大名屋敷(陣屋)を麻田(現蛍池)の地から移築しました。

大玄関は書院とともに当時のおもかげをいまに残しています。特に玄関の大虹梁(こうりょう)の上の蓑股(かえるまた)に彫られた「富士に霞(かすみ)」の紋は、青木家が徳川家康から賜った紋所として有名です。

玄関は昭和62年10月豊中市教育委員会から文化財として指定されています。



大玄関



本堂

浄土宗

くまのだいざん ほう しゅう じ

熊野代山 寶珠寺

宗 祖 法然上人
本 山 知恩院(京都市)
本 尊 聖観世音菩薩

住所 豊中市熊野町3-10-1 〒560-0014
電話 06 (6849) 9228 FAX 06 (6849) 9228
住職 芳丸 龍英

寶珠寺由緒

第65代花山天皇(その後19歳で法皇となる)が開基し、河内国石川寺の佛眼上人を開山として長徳2年(996年)に創建されたとされている。山号の「熊野代山」の由来は、法皇が熊野山参詣の途中に当地に立ち寄った際「熊野権現の再現である」といわれた事に依る。又、院号の「花山院」は花山天皇に因んだものであり、寺号の「寶珠寺」は当地から宝珠が探求されたことに依るものである。

寺宝(文化財)

・金銅菩薩立像

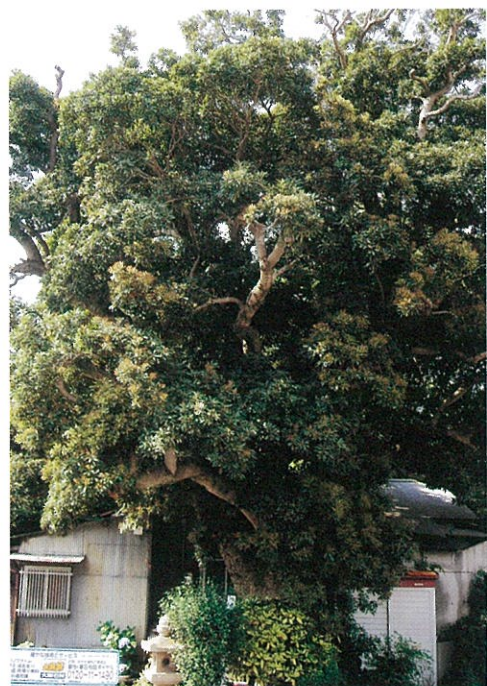
豊中市域に伝わる最古の仏像とされている。三面頭飾、頬の四角く張った愛らしい相貌など、7世紀後半(飛鳥時代後期)の仏像の特徴が示されており、花山法皇の守本尊となっている。

・木造聖観音菩薩立像

当寺の本尊として本堂内に安置されている。左手を屈して未敷蓮華(みぶれんげ)をとり、右手を垂下する姿をしている。平安時代の後期(10世紀後半～11世紀)に制作された等身大の像である。



三重宝きょう印塔(南北朝時代の作)



ヤマモモの大木(豊中市指定の保護樹木)

日蓮宗

みょうけんざん ほっ け じ

妙見山 法華寺

宗 祖 日蓮大聖人
祖 山 身延山久遠寺(山梨県)
本 尊 久遠の本師 釋迦牟尼佛

住所 豊中市曾根西町2-13-14 〒561-0801
交通 阪急宝塚線「曾根」下車市立第一中学校西側
電話 06 (6852) 0679 FAX 06 (6852) 0799
住職 大岩 泰英

住職の所感

妙見山法華寺は永禄10年(1567)日音上人(境内墓地に板碑あり)を開基とし、寛永12年(1635)阿部備中守の家幹、近藤五郎左衛門と山本新兵衛の両名が、熊野田の山中にて法華經の読誦行を積まれていた名僧 実成院日雄上人に懇請し、原田(現在は曾根)へ開山に迎えて開創された。寺録に「寛永の頃將軍秀忠公御秘藏の時鳥と云う名馬を阿部備中守御領致されこれある処家臣近藤五郎左衛門かねて武功の誉れありければ備中守亦時鳥を近藤に付属せしに最早老馬となりて終に病死せし五郎左衛門摂州豊島郡原田村法華寺日雄上人を頼し古跡尾崎八幡宮社地に葬り置処世に名高き時鳥名馬の塚なり」と伝える。以来、歴代の上人を中心に外護の檀家衆とともに寺觀が整えられ、また行学兼備の名僧の名が歴代碑に多く刻まれ往時が偲ばれる。しかし明治維新(1867)なるや、上地令の実施による寺域の大幅な縮小、廢物毀釈や神仏分離令の実施による村社曾根八幡宮、服部の天神宮、住吉宮からの撤収など、時代の奔流に曝されたが、第22世日省、第23世日禎、第24世日輝の三代上人の護山への精進で、明治末には、再び寺觀や寺域が整えられた。国の興亡は直ちに社会全体に及ぶもの。昭和の大戦下、同20年6月15日(1945)大阪大空襲で被災し全山を焼失、8月終戦、戦後復興の途上、農地解放令実施による供養田地の解放、復興再建中

の本堂の台風による倒壊災害、宗教法人法の実施など第26世日貫上人、これによく耐え忍び復興を志すが、第4次復興途上の昭和41年に示寂。寺檀は志を継承し昭和48年に新本堂を、第5次復興として平成14年客殿庫裡の再興を果たし、なお諸整備が続く戦後60余年の現在である。昔、総代の翁が云う「およそ記念とは、その前半は回顧であり、その後半は将来である。回顧に伴う発展がなければ何の意味もない。」と。「豊中仏教会創立70周年記念」の誌を機に、寺史を回顧してこれを記し、心から記念したく思う。



正門



境内

浄土真宗本願寺派

じねんざん みょう ふく じ

自然山 明福寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)

住所 豊中市庄内東町3-16-1 〒561-0831
交通 阪急宝塚線「庄内」下車 東へ300m
電話 06 (6331) 3574 FAX 06 (6331) 1884
住職 小畑 元昭

由緒

三屋村在住の小畠彦右衛門が本願寺證如法主に帰依し、剃髪して、永寿と法名し、天文5年(1536)有志の助力により当寺を創建した。明和4年(1767)火災全焼したが、明和6年(1769)第10世心海が檀家と協力して再建した。

年中行事

1月……元旦修正会
御正忌法要
明福寺仏教婦人会新年会
3月……春彼岸会法要
4月……永代経法要 花祭り
7月……明福寺門徒会親睦旅行会
8月……お盆会法要
9月……秋彼岸会法要 みょうふく寄席
11月……報恩講法要 みょうふく華展
12月……除夜会



本堂 全景



明福ルンビニホール。仏事、各種会議、趣味の教室等、多目的に利用されている

真宗大谷派

はっほうざん ゆい ぶつ じ

八峰山 唯佛寺

宗祖 親鸞聖人
本山 東本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来

住所 豊中市豊南町南4-5-15 〒561-0815
交通 阪急宝塚線三国駅下車北へ旧三国橋を渡り8分
電話 06 (6332) 2300 FAX 06 (6332) 1600
住職 田原 翠成

縁起

八峰山唯佛寺は、滋賀・岐阜県境の秀麗伊吹山麓・真宗大谷派唯佛寺の大阪坊舎として、住職釋翠成により昭和29年に設立認証されたのが始まりです。

真宗大谷派唯佛寺は今を去る400年前慶長5年(1600年)2月開基僧「善證」により天台宗の寺院として開山された。

天下分け目の関ヶ原合戦場に程近く、殉職者を弔う徳川方菩提寺であったとされている。

慶長13年(1613年)本願寺第12世「教如上人」の知遇により、真宗大谷派(東本願寺)に属し慶安2年3月八峰山唯佛寺の山号と寺号を差許された。

さて当寺は、戦後の混乱期のなか社会浄化が叫ばれる折、とりわけ青少幼年の健全育成のため意を注ぐ篤信者の要請により、当聖地に幼児教育施設と宗教施設の設置を見、佛教の「生命尊重」「報恩感謝」「和合精進」を教育理念として幼児教育と保育、並びに社会教育に専念している。

主な年中法要・行事

- 1月……修正会
- 2月……集おう学ぼうお寺で
- 3月……春季彼岸会 門徒総永代経
- 4月……花祭り子供大会
- 5月……集おう学ぼうお寺で
- 6月……集おう学ぼうお寺で
- 7月……集おう学ぼうお寺で
- 8月……盂蘭盆会
- 9月……秋季彼岸会 門徒総永代経
- 11月……報恩講
- 12月……歳末煤払い

近年の大法要

1979年現在地に本堂の移築による御移徒法要、親鸞聖人800年立教開宗750年の慶讃法要、須弥壇新調報告法要並びに蓮如上人500回御遠忌慶讃法要を勤修し浄土三部経を根本經典として、法灯は今日に脈々と継がれている。



本堂ならびに庫裡



親鸞聖人像

浄土真宗本願寺派

ぜんこうざん よう しょう じ

善興山 養照寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)

住所 豊中市小曾根1-8-8 〒561-0813
交通 阪急「服部」駅、地下鉄「江坂」駅より徒歩10分
電話 06 (6334) 2905 FAX 06 (6334) 2905
住職 丸川 司文

沿革

天平年間、真言宗の宝地善興寺と称して行基により創建される。明応年間智鑑別号道賢入道(麻呂川中務源延貞)の時代に、本願寺第八世蓮如上人石山行下の際、真宗に転じ名を念西、寺号を養照寺と称することとなる。

本堂の創建年次は不明であるが、宝永7(1710)年第9世浄空の代に檀信徒協力して現在の堂宇を再再建とある。

経蔵「正法蔵」

当寺は狭小ながらも七堂伽藍(本堂・山門・庫裡・経蔵・鐘楼・太鼓楼・東司)を備え、その中でも経蔵は、「正法蔵」と呼称され、享保7(1722)年、第10世浄山の代に建立された。中国明代天啓癸亥3(1623)年の支那大蔵經一萬卷を所蔵。「欣迎於支那大蔵總計帙三百六十函 冊化一萬卷」とある。

阪神淡路大震災で甚大な被害を被るも、今年平成19(2007)年納骨堂を兼ね備えて再建される。



本堂

華嚴の鳳譚(僧濬)

江戸中期の稀代の学僧として知られ、広く仏教諸宗の教理に研鑽され、当時衰退していた華嚴宗の復興を期して、京都松尾の華嚴寺(鈴虫寺として有名)を開山。華嚴教理の宣揚のため、各宗派の高僧達と様々な評論論争を重ねる。浄土真宗では、日溪法霖との論争は知られるところである。

鳳譚と第10世浄山とは親交篤く、享保11(1726)年、当寺に滞在し「養照浄寺大蔵經龕記」等の書が残される。

襖絵「秋草に鶴」

享保年間、摂津近郊で活躍した狩野派の勝部如春斎筆。

定例法要

ご正忌新年の集い 永代経法要 盆会法座
報恩講法要 常例法座 等



経蔵(正法蔵)

浄土真宗本願寺派

とおせいざん れん きょう じ

藤井山 蓮敬寺

宗祖 親鸞聖人
本山 西本願寺(京都市)
本尊 阿弥陀如来(南無阿弥陀佛)

住所 豊中市上津島2-22-25 〒561-0843
交通 阪急電車神戸線「園田」又は宝塚線「庄内」下車
阪急バス上津島停留所下車
電話 06 (6863) 2299 FAX 06 (6866) 1546
住職 向野 信昭

由緒

村の歩みを知る大銀杏のある当寺は、もとは大阪の浦江にある西光寺の檀家で、説教所として村人の真宗教化の道場として始まった。

初代現道は俗名南田利介、椋橋の庄上津嶋村に居住す。

時に本願寺第9世実如法主に帰し、法名現道と賜う。其の後、有志の助力に依り一字の草庵を創立す。而の後「大永3年3月15日」開基仏並に寺号を蓮敬寺と賜う。(南田利介は興正寺派第10世法主の直弟で出家して現道という)

本堂

平成7(1995)年1月17日の阪神淡路大震災により本堂が全壊し、門信徒のご懇念により平成9年に新しい本堂が落慶された

大銀杏

境内にある市の保護樹として指定された銀杏の木は寺の文献より約490年の樹齢と思われる。



内陣



本堂外観と大銀杏

豊中市仏教会賛助会員名簿 順不同

番号	会 社 名	代表者氏名	郵便番号	住 所	電話番号	FAX番号
1	(株)加 納	上村 学	561-0881	豊中市中桜塚2-12-2	06-6583-6843	06-6843-4118
2	(株)公益社 豊中営業所	播島 幹長	561-0882	豊中市南桜塚1-21-4	06-6841-0042	06-6852-0042
3	(有)豊中共益社	菅 好春	560-0032	豊中市蛭池東町1-2-5	06-6852-0142	06-6843-4942
4	(株)閑 雲 堂	弓場 國宏	560-0032	豊中市蛭池東町1-2-7	06-6843-3633	06-6841-3799
5	(株)畑 中	畑中 優貴	560-0014	豊中市熊野町2-9-50	06-6498-6778	06-6498-6579
6	(株)越 前 屋	滝本 道子	561-0858	豊中市服部西町1-8-15	06-6862-0401	06-6862-0409
7	浜屋(株)豊中店	濱田 博邦	564-0023	豊中市岡上の町4-1-10	06-6848-2211	06-6848-2861
8	(株)豊 建 商 事	福盛 康友	560-0022	豊中市北桜塚2-1-1	06-6853-2801	06-6849-6326
9	(有)河亀仏具店	松井 克久	560-0021	豊中市本町1-4-16	06-6852-3822	06-6853-1780
10	(株)中 山 石 渠	松山 健二	561-0845	豊中市利倉1-9-1	06-6862-0074	06-6862-8246
11	(株)松田石材店	松田 利雄	561-0802	豊中市曾根東町5-16-15	06-6863-1481	06-6863-1484
12	(株)二葉ホテルアイボリー	山西 洋一	560-0021	豊中市本町3-1-13	06-6849-1111	06-6849-7727
13	ソニー生命保険(株) 大阪LPC第4支社	横田 広司	530-0001	大阪市北区梅田2-2-22 ハービス15階	06-4797-1814	06-4797-1823
14	(株)大 阪 葬 祭	延野 眞弓	561-0834	豊中市庄内栄町5-5-22	06-6333-7113	06-6333-3262
15	(株)大阪大仏堂	石橋 信久	550-0015	大阪市西区南堀江1-7-3	06-6534-5901	06-6534-5912

業種 葬祭サービス業

か のう
株式会社 加納

代表者名 上村 学
役職 代表取締役
所在地 豊中市中桜塚2-12-2 〒561-0881
交通 阪急電車岡町駅 豊中市役所筋向い
電話 06 (6853) 6171 FAX 06 (6843) 4188
URL <http://www.kk-kanou.jp>

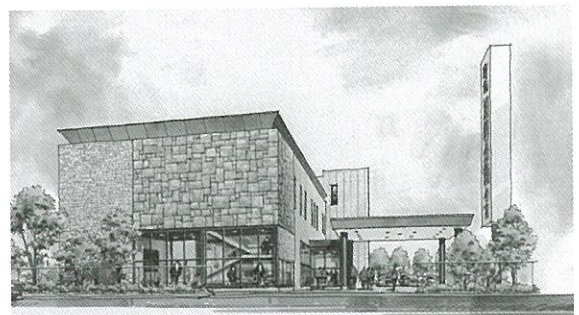
沿革・事業内容

明治の末、初代加納新兵衛が当時の豊中村岡町本通り(旧能勢街道、現在の岡上の町1丁目)に葬祭業加納葬儀社を創業、その後周辺地域を合併して、豊中町、豊中市と発展。戦前に米国の乗用車パカードを購入、改造して霊柩車として使用、恐らく北摂地域では唯一の霊柩車であったと思われます。戦後昭和21年上村英一が中支より復員、会社の復興を計る。昭和23年事業拡大をはかるべく改組。株式会社加納となる。豊中市も庄内地域を合併して人口増大と共に加納も事業順調に発展。昭和50年上村英一死去、後を継いだ長男上村登は、昭和60年8月日航機事故に依り急逝。被災者500余名の搬送を近隣業者の協力を得て

無事終了。昭和62年地域の要請に応じ、葬祭式場加納会館をオープン、平成7年1月阪神淡路大震災発生。死亡者6000余名、豊中市に於いても10余名の被災者があった。各寺院、神社、教会に於いても建物の損壊多数発生、平成9年加納会館増築リニューアル、平成18年11月地域の需要に応じて、加納会館今宮をオープン。今日消費者のお葬式に対する意識の変化、家族構成の変化、超高齢社会等時代の要請に応えるべく(株)加納は創業以来の信条「棺の中の仏様からも感謝される仕事をする」をモットーに日夜役職員はその職務に精励、葬祭文化の発展、地域福祉の向上に励んでおります。



加納会館



加納会館今宮

業種 葬祭業

こう えき しゃ
(株) 公益社 豊中営業所

代表者名 山本 敦史
役 職 所長
所 在 地 豊中市南桜塚1-21-4 〒561-0882
交 通 阪急宝塚線曾根駅徒歩10分
電 話 06 (6841) 0141 FAX 06 (6852) 0042
URL <http://www.koekisha.co.jp>

沿革

株式会社公益社は昭和7年の創業。当時としては珍しい株式会社組織としてスタートしました。豊中営業所は昭和21年に設立され、地域密着をモットーに多くの方のご葬儀をお手伝いしてまいりました。現在の公益社会館豊中のオープンは平成10年7月。ワンフロアー貸切の形式で、皆様からご好評をいただいております。平成19年1月には、公益社千里会館もリニューアルオープンしました。

特徴

創業時、「お葬式は10円から」というキャッチコピーで葬儀費用の明瞭化に努めてまいりました。業界初の株式上場など透明性向上にも注力してまいりました。



公益社 千里会館

所長の一言

どんな事でもお気軽にご相談下さい。若いスタッフが中心で仕事をしておりますが、皆様のご要望に精一杯お答えしたいと思っております。

最近に残されたご家族の事を心配し、ご自身のお葬式についてのご相談も増えてきました。お葬式は突然の事です。もしもの時に慌てないように是非、事前にご相談下さいませ。



公益社会館 豊中

業種 お仏壇、寺院仏具販売

かく うん どう

株式会社 閣雲堂

代表者名 弓場 國宏
役職 代表取締役社長
所在地 豊中市蛍池東町1-2-7 〒560-0032
交通 阪急宝塚線蛍池駅下車南へ100m
176号線添
電話 06 (6843) 3633 FAX 06 (6841) 3799
URL(楽天WEB) <http://www.rakuten.co.jp/kakuundo/>
URL(寺院仏具WEB) <http://www.kakuundo.co.jp/obutsugu-hyakkaten/>
mail mail@kakuundo.co.jp

沿革

我が社に現存する記録によると祖先は現在の奈良県橿原市今井町において「生田屋」として刀匠を営み、十津川藩や土佐藩の御用鍛冶師として七代にわたり栄えて参りましたが、明治10年頃に発布された刀剣廃止令に伴い家業の継続が困難となりやむなく刀匠を廃業、新たな家業を思考の結果、代々苦楽を共にした職人衆の高度な伝統技術を活用した職業としてお仏壇の製造の道を選択したと伝えられております。刀の鞘を造る木地師はお仏壇の木地や彫刻を、鞘に漆を塗る塗師は黒や朱の漆を塗り、切金師は金箔を貼り金粉を蒔き、飾金具師は蝶番や繊細な飾金具を打ち、蒔絵師は唐草等の美しい蒔絵を描く等、日本の伝統工芸技術を修得した職人衆を結集しての再出発でした。

思えば、代々の祖先が人を殺める刀剣造りに邁進した家業から、次の代には仏様をご供養するお仏壇に関わる生業を操業するのも、何か因縁深い遠い昔からの約束事のように感じられてなりません。

今日、刀匠から仏壇商に転業した初代より数えて四代目に当たる「お仏壇の閣雲堂」は梅田新道店を基に豊中店・川西店・西宮店・吹田店・芦屋店と北摂から阪神間に「信頼のお仏壇専門店ネットワーク」を広く展開し地域の皆様に親しまれる仏壇店として「お客様満足度100%達成」を目指して全社員一同努力致して参ります。

今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



閣雲堂豊中店



閣雲堂吹田店

業種 宗教用具製造販売

大阪仏壇仏具センター

株式会社 越前屋

代表者名 滝本 道子
役職 代表取締役社長
所在地 豊中市服部西町1-8-15 〒561-0858
交通 阪急服部駅より徒歩約5分
電話 06 (6862) 0401 FAX 06 (6862) 0409
URL <http://www.echizenya.co.jp>
mail webmaster@echizenya.co.jp

ご挨拶

越前屋は創業以来、平和な家庭は祖先の礼拝からを礎に、仏さま、ご先祖さまをおまつりし、感謝し、合掌する習慣を伝えて参りたいと常に願い、努めてまいりました。今後とも初心を忘れることなく、伝統の技術、技法の継承に総力をあげ、次代に日本の心と技を伝える努力をしてまいりたいと思います。なお一層の御愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

事業の内容

在家用仏壇仏具の製造販売及び寺院用仏具の設計施工、並びその他宗教用具全般の取扱い。

事業の特徴

①『大阪仏壇』(漆塗金仏壇)の製造販売 大阪仏壇は、飛鳥時代、仏教伝来とともに百済から難波津に仏師や造寺工が渡来したことから始まり今に伝える伝統的工芸品です。当社は、その伝統技術を今に伝え、伝統工芸士所属の本社工場で日々製作し、各派各寸の製品を、『匠館』にて常時展示致しております。

②『創作仏壇木匠』(銘木仏壇)の製造販売

創作仏壇木匠は日本産純天然木のお仏壇で、樺・たも・枿・栗・栓・縞柿・槐等を素材とし、色あい・木目・風格・荘厳さ・木肌の本当の美しさを極めた逸品です。

③寺院荘厳具の創作

各宗派の従来型伝統仏具の製作はもとより、ご寺院様のご要望に対応した創作仏具の製作に力を入れております。

④御内陣工事の施工

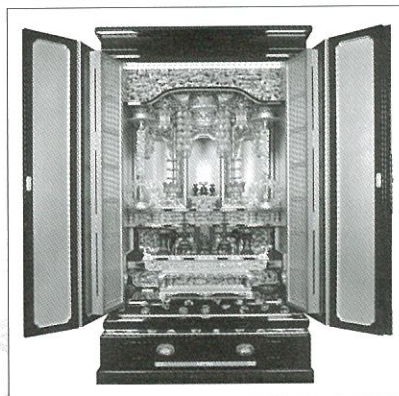
建物内部の漆塗・箔押・金紙表具・彩色等の工事、並びに欄間・障子・襖等の建具製作に力を入れております。

⑤仏壇仏具修復

長い歳月の中で傷みが生じたお仏壇お仏具を、その価値が損なわれることなく、さらに長年にわたり使用するための再生修復の作業に力を入れております。伝統技術の継承の意味においても極めて重要な作業と位置付けています。

本店・支店の所在地

- ・服部本店・伝統工芸 匠館
〒561-0858 豊中市服部西町1丁目8番15号
電話:06-6862-0401
- ・千里中央店
〒560-0082 豊中市新千里東町1丁目3番105号
(千里中央・せんちゅうばる1番街1階)
電話:06-6871-0401
- ・十三店
〒532-0024 大阪市淀川区十三本町1丁目11番11号
電話:06-6300-0401
- ・敦賀店
〒914-0056 福井県敦賀市津内町1丁目4番17号
電話:0770-25-0401
- ・本社工場 株式会社越前屋佛具製作所
〒561-0587 豊中市服部寿町1丁目1番1号
電話:06-6862-0487



浄土真宗本願寺派(内間中)
胴沓粉溜段甲呂梨地・相金机付・
段廻り・花丸・敷下段最上高時絵

業 種 総合商社

とよ けん しょう じ
豊建商事 株式会社

代表者名 福盛 康友
役 職 代表取締役
所 在 地 豊中市北桜塚2-1-1 〒560-0022(本社・本店)
大阪市北区西天満3-2-1 〒530-0047(大阪支店)
電 話 06 (6853) 2801

創 業

昭和5年10月

設 立

昭和24年10月3日

会社沿革

昭和5年1月福盛商店として建材業を創業。
その後、昭和24年に法人化し(株)豊中建材店と商業変更、昭和39年に現在の豊建商事(株)となる。
昭和41年に生コン製造会社、北大阪菱光コンクリート工業(株)を設立。平成8年には守口菱光(株)、枚方菱光(株)を設立し、輸送会社である(株)豊菱を平成9年に立ち上げ、車輛メンテナンス及び燃料会社であるセイユー興産、IT・印刷会社(株)バンダムコーポレーションを含め、現在8社15営業所、グループ売上高150億、従業員110名、保有車輛100台からなる豊建グループを形成している。
建設資材の総合商社として昭和31年に大阪で最初の三菱セメント特約店となり、平成14年にISO9001:2000を認証取得。
今年で創立77周年を迎え、現在に至る。

グループのモットー

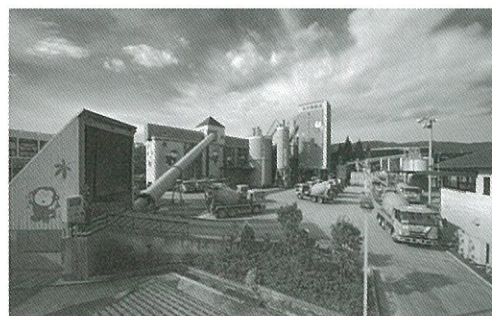
私達豊建グループはより良い商品と、心あるサービスを提供しユーザーのニーズと信頼に応え、バランスのとれた、社会に貢献できる会社づくりを目指します。

社長の一言

面壁一生・GO.STOP.GO(BACK)



豊建グループ本社



北大阪菱光 箕面工場

業 種 石材販売

まつ だ せき ざい てん

株式会社 松田石材店

代表者名 松田 利雄
役 職 代表取締役
所 在 地 豊中市曽根東町5-16-15 〒561-0802
交 通 阪急宝塚線「曽根」駅下車、東へ徒歩8分
電 話 06 (6863) 1481(代) FAX 06 (6863) 1484
URL <http://www.stone-matuda.co.jp/>
mail info@stone-matuda.co.jp

創 業

昭和46年6月

本 社

豊中市曽根東町5-16-15

支 店

小曽根、伊丹、枚方、堺

工 場

茨木市、堺市

沿 革

昭和30年 4月 松田利雄 石材店開業のため修業
昭和46年 6月 大阪府豊中市小曽根2丁目1804の24に松田石材店開業
昭和47年 7月 大阪府石材事業協同組合加盟
昭和47年 7月 大阪府豊中市北条町3丁目13-6に作業場および展示場設置
昭和49年 10月 大阪府豊中市北条町3丁目14-37に本店事務所設置
昭和51年 7月 伊丹有岡ライオンズクラブ入会
昭和53年 11月 兵庫県伊丹市南町2丁目3-3に伊丹支店設置
昭和54年 4月 大阪府堺市泉田中2182-1に堺支店設置（工場・事務所・大展示場）
昭和54年 7月 大阪府豊中市小曽根2丁目2-11に小曽根支店設置
昭和55年 1月 株式会社松田石材店として設立
昭和56年 4月 大阪府枚方市津田西町1丁目4-23に枚方支店設置
昭和56年 9月 大阪府茨木市豊川4-34に工場・倉庫設置
昭和60年 4月 大阪府豊中市曽根東町5丁目16-15に
株式会社松田石材店本社ビル完成移転
平成6年 4月 全国優良石材店（全優石）加盟・認定



本社

業 種 サービス業

株式会社 二葉

ホテルアイボリー

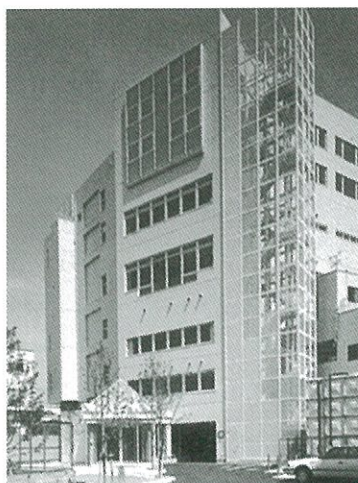
代表者名 山西 洋一
役 職 代表取締役
所 在 地 豊中市本町3-1-13 〒560-0021
交 通 阪急宝塚線「豊中」下車北へ50m
電 話 06 (6849) 1111 FAX 06 (6849) 7727
URL <http://www.hotel-ivory.co.jp/>
mail enkaiyoyaku@hotel-ivory.co.jp

創業・沿革 事業内容

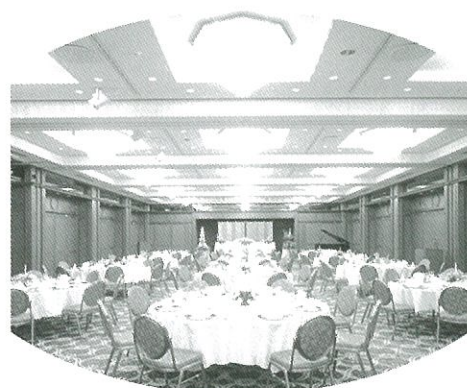
豊中市仏教会、創立70周年をお慶び申し上げます。私共の会社は昭和23年2月に豊中市本町3丁目の地にて創業し、現在の主たる事業のホテル・アイボリーを万国博覧会の前の昭和42年にスタートさせました。その後、平成2年に天然温泉を利用した、スポーツクラブ「GEO1300スポーツ」、平成12年より、和食・伊太利料理「新免館」、川西市に、和食「花さくら」をオープン、最近では平成17年度より豊中市内にデイ・サービス施設を2ヶ所開設いたしました。この他、関連する業務として、駐車場経営、不動産賃貸、配食事業をさせて頂いております。

ご利用形態の特色といたしましては、ホテルにおきましては、地域諸団体や地元の方々の会合を

初め、ご法要などにもご利用頂き、地域に根ざした内容となっております。又、スポーツクラブにおきましても天然温泉を利用したクア・ハウスを特色とした施設内容となっており、シルバー世代を初めとして色々な世代の方々にご利用頂ける内容となっております。これらのコンセプトとしましては最近の言葉でいうところの「コミュニティー・ビジネス」の一つの形態かとも思っており、地域で活動する企業にとって、その地域の生活に少しでも貢献出来る様今後共努力してまいります。



ジオ1300 スポーツ



ホテルアイボリー オーキッドホール

業 種 葬祭業

おお さか そう さい

株式会社 大阪葬祭

代表者名 延野 眞弓
役 職 代表取締役
所 在 地 豊中市庄内栄町5-5-22 〒561-0834 (本社)
交 通 阪急電車庄内駅 阪急バス庄内栄町5丁目
電 話 06 (6333) 7113 FAX 06 (6333) 3262
URL <http://osakasousai.jp/>
mail osaka-ichijyou@juno.ocn.ne.jp

創 業

昭和42年7月1日

設 立

平成3年2月8日

社の方針

私達は人としての心を尊び故人との絆を大切に
したより良い「お別の形」を実現して参ります。24時
間迅速対応を実践しきめ細やかな心使いをスロー
ガンに掲げ故人、ご遺族、会葬者を大切に時代に
あった格調高いご葬儀を執り行います。満足度
100%を目指し「ここにして良かった」とお客様ど
なた様からもその言葉を口にして頂けるように真心込
めて誠心誠意ご対応させていただきます。

事業内容

寝 台 車 年中無休・24時間体制で対応
事前相談 ご葬儀 生前予約 法要
葬儀施行 会館葬、ご自宅葬、寺院葬、社葬、
団体葬、お別れ会など全て対応
手 配 生花、檜、供物、貸衣裳、貸布団、料理

業務実績

全葬連加盟店、if共済会加盟店 市営葬儀指定店

社長の一言

尽きる事のない亡き人への思い 遺族の方々
の良きアドバイザーになりスタッフ一同真心と思いや
りを込め大切な儀式を責任をもって行わせて頂き
たいと存じます。



本社 大阪葬祭・一乗会館 (家族葬から社葬まで)



大阪葬祭・庄内会館 (家族葬専用)
豊中市庄内栄町3-21-4

仏教会結成七十周年にあたるこの記念すべき年に、宗派を超えた会員たちが、手を携えて、伝統仏教教団として地域に貢献することを再確認するための本書を、上梓できたことを心から幸いに感じております。

昨年豊中市仏教会の役員会の折に、一枚の古い集合写真と資料を見せて頂きました。その資料を読んでゆくうちに今年が仏教会結成七十周年にあたる事が判明し、役員会において「七十周年の記念のつどい」を開催し、記念誌を作成しようということになりました。

しかし、初めてのことで当時を知る方も少なく、資料集めに大変苦勞いたしました。記念誌委員の方々や実行委員会の方、又数少ない当時を知る先輩の先生方の御協力のもと上梓できた事を感謝申し上げます。

近年、国内においては、いじめ、自殺、親が子を、子が親を殺めるといった悲惨で深刻な事件が多発する一方、世界の情勢に目を向けると。軍事

力最優先・自国の利益の為なら手段を選ばないという暗い影の広がり、テロがテロを呼び、多くの尊い命が失われるような憂慮する事態となってきました。

仏教は「不諍の法」といわれています。それは（争わない）ということです。伝統的な釈尊教団は「サンガ」といわれ、「和合僧」ともいいます。仏教会結成七十周年を迎えることのできた我々は、宗派を超えて、仏教徒として共に手を携え、（生かされている命の尊さ）を、更に、あらゆる人々に呼びかけてゆくではありませんか。

混沌とする現代であるからこそ、（釈尊の教え）が心に響くのではないかと思います。

最後になりましたが、この記念誌作製にあたり多大のご協力をいただいた（株）廣濟堂、なかでも編集全般にわたりご尽力下さいました泉井雅樹さんに、この場を借りお礼申しあげます。

記念誌委員長
西福寺 榎原清了

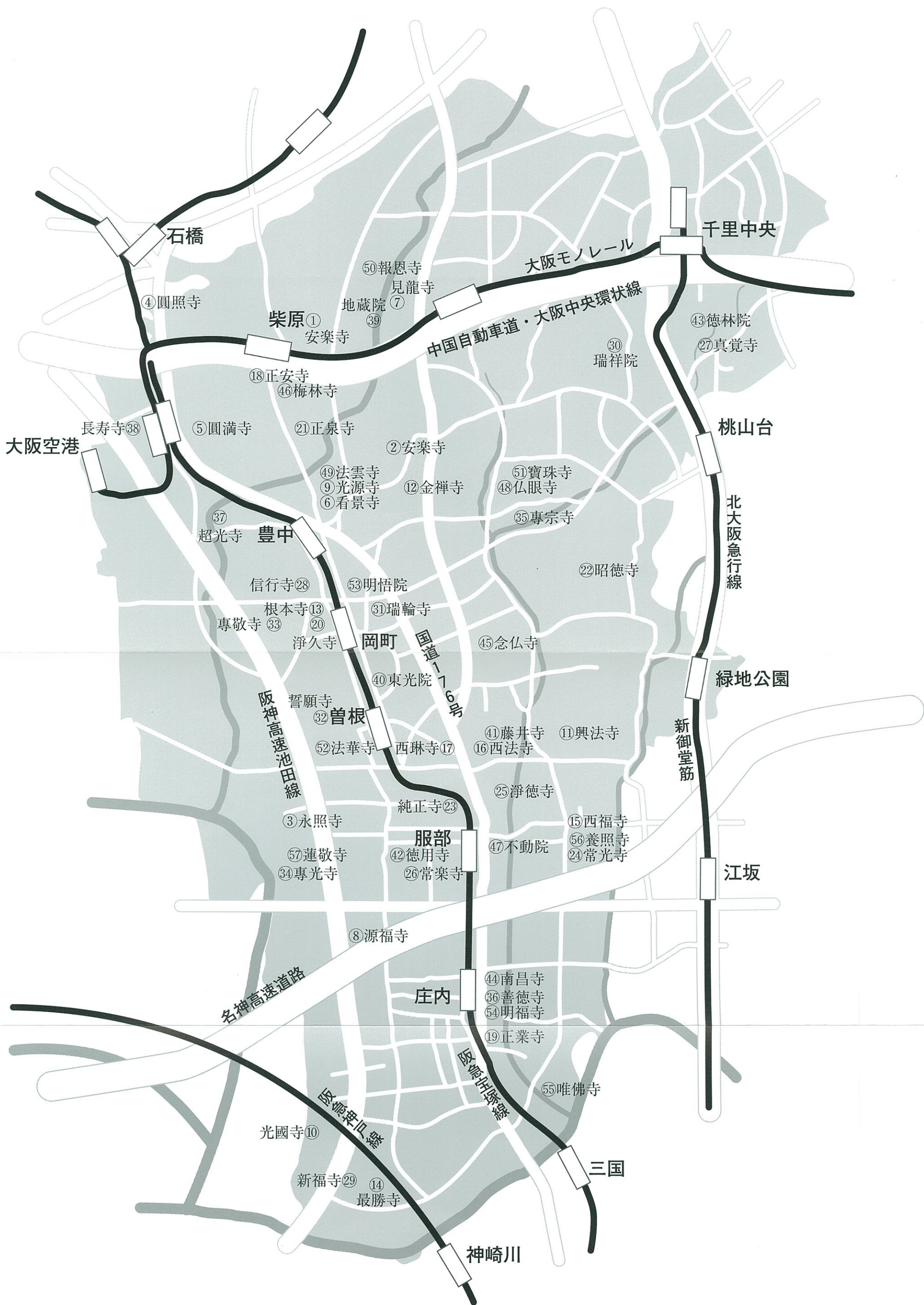
豊中市仏教会70周年記念誌

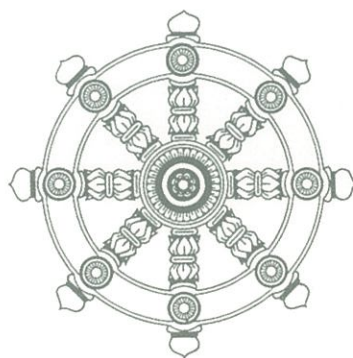
平成19年12月2日発行

発行 豊中市仏教会

編集 豊中市仏教会70周年実行委員会

印刷 株式会社 廣濟堂





豊中市仏教会七十周年記念